

2025 年度 評価結果報告書



# 港区立神明保育園

(認可保育所)

株式会社日本生活介護

## 構成

### 第一章 評価推進機構への報告

1. 福祉サービス第三者評価結果報告書
2. 事業プロフィール
3. 利用者調査 . . . . . p 1~4
4. 組織マネジメント . . . . . p 5~14
5. サービス分析 . . . . . p 15~26
6. 事業者が特に力を入れている取り組み . . . . . p 27
7. 全体の評価講評 . . . . . p 28

### 第二章 利用者調査結果

1. 利用者調査結果 . . . . . p 1~12

### 第三章 職員自己評価結果

1. 職員集計結果 . . . . . p 1~16
2. カテゴリーごとのコメント . . . . . p 17~18
3. 前年度の取り組みにより良くなったと思う点 . . . . . p 19
4. 特に良い点・改善点コメント . . . . . p 20~22

## 第一章 評価推進機構への報告



## 福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

2026年 3月 日

東京都福祉サービス評価推進機構  
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 176-0001

所在地 東京都練馬区練馬1-20-2

評価機関名 株式会社 日本生活介護

認証評価機関番号

機構 02 - 015

電話番号 03-3991-8440

代表者氏名 佐藤 義夫

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	齋藤 貴明	経営	H1102028
	②	島田 きぬえ	福祉	H1901041
	③	桐谷 しげ子	福祉	H2001103
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	港区立神明保育園			
事業所連絡先	〒	105-0013		
	所在地	東京都港区浜松町1丁目6番7号 プラザ神明1階・2階・3階		
	TEL	03-5733-6822		
事業所代表者氏名	園長 福尾 唯			
契約日	2025年 8月 28日			
利用者調査票配付日(実施日)	2025年 11月 11日			
利用者調査結果報告日	2026年 1月 6日			
自己評価の調査票配付日	2025年 11月 10日			
自己評価結果報告日	2026年 1月 6日			
訪問調査日	2026年 1月 19日			
評価合議日	2026年 1月 19日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査については、アンケート調査を行った。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。  
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2026年 3月 日

事業者代表者氏名

印

1	<p><b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b></p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)安全&amp;安心を第一に保育・育成します。 2)いつまでも思い出に残る施設となるよう日々の保育を大切にします。 3)職員が楽しく働けることで子どもたちを笑顔にします。 4)地域とつながり支え合う施設として社会に貢献します。 5)常に時代が求める子育て支援を実施し続けます。</p>
2	<p><b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b></p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの健やかな成長を第一に考えたうえで保護者や地域ニーズを読み取り日々の保育に反映させることができる人材。</li> <li>・地域の子育て拠点として自信をもって自ら発信する事ができる人材を目標に自己研鑽を積む。</li> </ul> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身の保育に自信をもって保育を行うために必要な知識・技術の取得</li> <li>・保護者ニーズに対して一定の線引きをしたうえで双方が納得いくような対応を行う為の経験を積む</li> <li>・キャリアアップを目指し、自分自身を振り返り成長する</li> </ul>

調査対象

全園児世帯の保護者を対象とした。  
複数の在園児がいる場合は、最年少の子どもに対しての回答をお願いした。

調査方法

Webによるアンケート調査は、二次元コードを記載した案内文を配布し、回答が直接評価機関に届くようにした。

利用者総数

129

利用者家族総数(世帯)

108

共通評価項目による調査対象者数

108

共通評価項目による調査の有効回答者数

56

利用者家族総数に対する回答者割合(%)

51.9

## 利用者調査全体のコメント

調査対象者108名のうち、56名から回答を得ることができた。  
満足度の高い項目として、「保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか」「施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか」「保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか」「提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか」「病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか」などがあげられる。  
総合的な満足度では、53名が「大変満足、満足」、3名が「どちらともいえない」と回答している。「非常に面倒見が良く感謝しています」「先生とお友達と仲が良く楽しく通っています」「安全面に配慮した対応がされており安心です」「感染症などの情報はもう少しリアルタイムに掲示してもらえると助かります」などのコメントがあがっている。

## 利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	55	1	0	0
55名が「はい」、1名が「どちらともいえない」と回答している。また、「入園してから語彙が非常に増えました」「ご飯を食べるのも上手になり元気いっぱいです」「先生がよく面倒を見てくれています」などのコメントがあがっている。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	52	4	0	0
52名が「はい」、4名が「どちらともいえない」と回答している。また、「工作やダンスなどの発表機会があり非常に良いと思います」「毎日楽しそうに登園しているので、そのように感じます」「月齢による発達差があるので、少し物足りなく感じます」などのコメントがあがっている。				

3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	52	3	0	1
52名が「はい」、3名が「どちらともいえない」と回答している。また、「家では食べない野菜を食べてくれて助かります」「給食がおいしいようで毎日完食しています」などのコメントがあがっている。				
4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	48	5	2	1
48名が「はい」、5名が「どちらともいえない」、2名が「いいえ」と回答している。また、「年少から運動会が開催され活動も増える印象があります」「公園によく連れ出してもらっています」「低年齢児の行事がもう少し増えると嬉しいです」などのコメントがあがっている。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	42	2	0	12
42名が「はい」、2名が「どちらともいえない」と回答している。また、「当日でも柔軟に対応してもらい助かっています」「電話で延長を申し込めるのがありがたい」などのコメントがあがっている。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	48	7	1	0
48名が「はい」、7名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。また、「けがの際の応急処置が適切です」「安全への配慮に感謝しています」「入り口のセキュリティをさらに高めてもらえると安心です」などのコメントがあがっている。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	48	6	1	1
48名が「はい」、6名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。また、「通知が早いので助かっています」「平日の行事は複数候補日があると参加しやすいと感じます」などのコメントがあがっている。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	44	10	1	1
44名が「はい」、10名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。また、「偏食の相談に乗ってもらい助かりました」「信頼できる先生がいます」「忙しくて話す機会も限られます」などのコメントがあがっている。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	54	2	0	0
54名が「はい」、2名が「どちらともいえない」と回答している。また、「いつも丁寧に掃除されていてありがたい」「砂が落ちている箇所の掃除もしてもらえると助かります」などのコメントがあがっている。				

10. 職員の接遇・態度は適切か	50	5	1	0
50名が「はい」、5名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。また、「ほとんどの先生が適切で、身だしなみもしっかりしていると思います」などのコメントがあがっている。				
11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	51	4	0	1
51名が「はい」、4名が「どちらともいえない」と回答している。また、「少々のけがでも連絡があり安心です」「信頼できる対応です」「ケガや傷について一言報告がほしいと感じることもありました」などのコメントがあがっている。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	36	4	0	16
36名が「はい」、4名が「どちらともいえない」と回答している。また、「トラブルになったことがありません」「上のクラスに上がると先生の配置も少ないので目が行き届いていないと感じることもあります」などのコメントがあがっている。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	47	7	0	2
47名が「はい」、7名が「どちらともいえない」と回答している。また、「子どもは先生が大好きなので、良い関係性を築いてくれていると思います」「発達の特徴に真摯に向き合ってもらえています」「人数が多くて対応が難しそうに見えることもあります」などのコメントがあがっている。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	48	3	0	5
48名が「はい」、3名が「どちらともいえない」と回答している。プライバシー保護が十分に図られている様子がうかがえる。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	51	3	1	1
51名が「はい」、3名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。説明は十分にわかりやすく行われている様子がうかがえるほか、「先生によって報告内容の詳しさが異なるように感じます」などのコメントもあがっている。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	37	10	0	9
37名が「はい」、10名が「どちらともいえない」と回答している。また、「送迎時は担任の先生でないため、情報が伝わっていないこともありましたが」などのコメントがあがっている。				

17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	30	6	6	14
<p>30名が「はい」、6名が「どちらともいえない」、6名が「いいえ」と回答している。また、「外部窓口の場所は知っています」「相談する機会が特にありませんでした」などのコメントがあがっている。</p>				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 <b>7/7</b>
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している <span style="float: right;">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float: right;">○非該当</span>
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <span style="float: right;">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している <span style="float: right;">○非該当</span>
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している <span style="float: right;">評点(〇〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝える <span style="float: right;">○非該当</span>
	カテゴリー1の講評	
	運営方針、保育理念、園目標等を掲げ、職員へ浸透を図り、保護者にも説明している 園では、運営方針・保育理念・保育方針・園目標を明確に掲げ、事業計画等に具体的に明記している。目指すべき方向性として運営会社から示された内容を踏まえ、事業所単位で丁寧に検討し、職員と共に議論を重ねながら日々の保育に反映している。2月中旬から後半に次年度体制を公表し、3月中旬の顔合わせで園長が方針を直接伝えている。全体計画は前年度中に確定し、各クラスで年間計画および月間計画を作成し、懇談会で保護者にも伝えている。保護者には入園前説明会や懇談会、個人面談を通して理念や方針も説明し、理解を得るよう努めている。	
	運営体制と職員各自の役割を明確にしており、意思決定のフローも定められている 園では組織図および職務分担表を整備し、運営体制と各職員の役割・責任を明確にしている。四半期ごとに職員面談を実施し、自らの役割を再確認するとともに、園長が一人ひとりの目標を共有し、達成に向けた具体的な助言を行っている。本部からの情報は各自が閲覧できる共有システムで収集可能としている。重要案件は定められたフローに沿って検討し、毎月の園長・副園長会議で決定している。必要に応じて全体リーダーを加えた会議も開催している。また、各クラス会議での意見も参考している。会議では事前に議事次第を整え、円滑な運営を図っている。	
	職員や保護者に重要事項を伝える際には、丁寧に説明し、伝達漏れがないようにしている 重要事項については、職員会議で内容だけでなく決定に至る経緯も丁寧に説明している。質疑応答の時間を確保し、職員が納得できるように配慮している。毎月の職員会議にあわせて、園内研修も実施し、重要なテーマについて共通理解を図っている。さらに、毎週金曜の昼礼では各クラスの状況や給食の様子、インシデント報告を共有している。若手職員も順番に参加できるよう配慮し、情報共有の偏りを防いでいる。連絡ノートやアプリ、文書配布も活用し、確実な周知を図っている。保護者には合同運営委員会や懇談会、文書等で重要事項を伝えている。	

カテゴリ-2		
2	事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行	
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリ-2の講評		
<p>保護者の意見を聞く機会を充実させており、職員の意向も会議や面談等で把握している</p> <p>行事後アンケートや意見箱、運営委員会前の調査を通じて保護者の意向を把握している。今年度からは通常の運営委員会に加え、小規模運営委員会も立ち上げるなど、対話の機会を増やし、直接意見を聴き取り組みを充実させている。事前に質問も募り、具体的な課題抽出につなげている。寄せられた要望には都度検討を行い、可能な範囲で速やかに対応している。職員の意見は職員会議やクラス会議、園長面談で丁寧に聴取し、保育内容や業務改善に反映している。運営会社が実施する本部アンケートの結果も共有しており、組織的に検討している。</p> <p>地域のニーズや保育の動向等を踏まえ、本部とも連携しながら適切な運営に努めている</p> <p>区主催の園長会や支所会に参加しているほか、運営会社の本部を通じて保育関連の会合等に参加し、地域に関する情報や保育の動向を把握している。商店街との交流や地域行事への参加を通じて地域ニーズも収集している。区とは毎月打ち合わせを行っており、園の運営に求められる事項等を確認している。こうして把握した情報を基に運営の課題を整理し、必要な対応について検討している。本部とも連携しながら、年間の予算執行率等を確認している。組織的な基盤を活かし、適切な運営に努めている。</p> <p>中長期的な視点から園の取り組み目標を明示し、進捗状況を確認して実行につなげている</p>		

園では、2027年までを見据えた中長期計画を策定し、保育の質の向上と地域連携の強化を重点目標として位置付けている。同計画をもとに年度ごとの事業計画を作成し、年齢別保育における配慮事項、年間行事、保護者との連携方法、職員研修計画等について具体的に明記している。事業計画の内容を踏まえて予算編成を行い、必要な人員配置や教材整備、研修費用を計画的に確保している。さらに月2回の園長・副園長会議で進捗状況を確認し、課題が生じた場合には柔軟に見直しを行いながら、計画の着実な推進に努めている。

3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
サブカテゴリ-3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

カテゴリ3の講評

**職員が守るべき事項について定期的に確認し、苦情解決の仕組みも周知している**

全職員に対して、法令遵守や倫理、人権尊重の重要性について本部指定のマニュアルや動画研修を通じて周知している。中途採用職員も含めた研修体制を整え、理解度を確認しながら定期的に学び直しの機会を設けている。区の実施する研修にも参加し、保育に関する者としての自覚を高めている。苦情解決制度については入園時に保護者へ丁寧に説明し、園内掲示で副園長や区の相談窓口の連絡先を明示している。苦情や要望が寄せられた場合は速やかに園内で共有し、必要に応じて本部と連携しながら、定められた手順に沿って組織的に対応している。

**人権チェックシートに基づく振り返りを通じて、虐待防止への意識を高めている**

不適切な保育や、職員の言動が子どもの気持ちを傷つけることのないよう、人権チェックシートを年3回実施し、日々の保育を振り返る機会を設けている。実施後は経験年数を踏まえ、職員が三人一組になって園長や副園長と話し合い、気づきや課題を共有している。必要に応じてクラスの保育を確認し、具体的な改善につなげている。また、職員会議では他園での事例を共有し、虐待防止の意識を高めている。虐待が疑われる場合や事実を把握した場合には、区や児童相談所など関係機関と速やかに連携し、組織として対応できる体制を整えている。

**園の取り組みを発信して運営の透明化を図り、地域と積極的に交流している**

園運営の透明性を高めるため、本年度よりSNSを開設し、ホームページとあわせて活動内容を積極的に発信している。区の規定を遵守し、子どもの顔出しを控えるなど、個人情報保護に注意を払いながら、日々の保育内容や畑での栽培活動などを紹介している。中学生の職場体験や実習生の受け入れ体制も整備し、事前説明や担当者の配置を行っている。同一建物内にある高齢者施設との交流や、地域イベントへの参加、公私立合同の交流なども進めている。近隣園が園の施設を利用することもあり、地域における子育て支援拠点としての役割を果たしている。

カテゴリ-4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ-1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 <b>5/5</b>
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ-2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 <b>4/4</b>
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ-4の講評		
<p>BCPIに基づき想定されるリスクに備え、消防・避難訓練など必要な訓練を重ねている</p> <p>災害や感染症に備え、本部と園それぞれでBCPを策定し、内容を共有している。感染症および自然災害を対象とし、想定されるリスク、事前対策、発動時の具体的な行動、検証方法まで体系的に整理している。事業計画にも危機管理対策を明記し、消防訓練や消火訓練、保護者との連携を想定した緊急時引き取り票の運用などを実施している。避難施設としての機能を踏まえ、同一建物内にある他施設との安全会議や備蓄確認、止水板設置訓練、不審者侵入訓練も年間計画に基づき実施している。津波リスクについても建物全体で対応手順を共有している。</p> <p>継続的な取り組みを通じて、事故を未然に防ぎ、子どもの安全向上に努めている</p> <p>園では、事故や感染症、侵入事案などが発生した場合は、本部および区へ速やかに報告し、要因分析を行ったうえで再発防止策を講じている。安全計画は区の書式に基づいて整備し、保護者にも配信して周知している。他園での事故を受け、水筒の斜め掛けを廃止しリュックに収納する方法へ変更するなど、具体的な対策を講じている。また、月1回の安全チェックには一般職員や用務員も参加し、転倒防止や備品管理、バギーの点検などを実施している。こうした継続的な取り組みを通じて、事故を未然に防ぎ、子どもの安全向上に努めている。</p> <p>個人情報保護の徹底を図っており、電子データの情報漏えい対策も講じている</p> <p>個人情報保護に関する規程等を整備し、全職員および実習生・ボランティアに対して遵守を求めている。定期的な研修および理解度確認のテストも行い、意識を高めている。個人情報については、管理台帳を活用し、取得目的や保管期間を明確にしたうえで管理している。書類は鍵付き書庫で厳重に保管し、持ち出し記録も徹底している。電子データについては、役職ごとに閲覧可能な情報を精査し、パスワードによるアクセス権限を設定して情報漏えいを防いでいる。さらに、運営会社のポータルサイトを通じて、職員が必要な情報を取得できる体制も整えている。</p>		

5			カテゴリ-5	
職員と組織の能力向上				
サブカテゴリ-1(5-1)				
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
			12/12	
<b>評価項目1</b> 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている <span style="float: right;">評点(〇〇)</span>				
評価		標準項目		
●あり ○なし		1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		○非該当
●あり ○なし		2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		○非該当
<b>評価項目2</b> 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している <span style="float: right;">評点(〇〇)</span>				
評価		標準項目		
●あり ○なし		1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		○非該当
●あり ○なし		2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		○非該当
<b>評価項目3</b> 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる <span style="float: right;">評点(〇〇〇〇)</span>				
評価		標準項目		
●あり ○なし		1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		○非該当
●あり ○なし		2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		○非該当
●あり ○なし		3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		○非該当
●あり ○なし		4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		○非該当
<b>評価項目4</b> 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる <span style="float: right;">評点(〇〇〇〇)</span>				
評価		標準項目		
●あり ○なし		1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		○非該当
●あり ○なし		2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし		3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし		4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		○非該当

サブカテゴリ-2(5-2)

組織力の向上に取り組んでいる

サブカテゴリ毎の  
標準項目実施状況

3/3

評価項目1

組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

カテゴリ-5の講評

求める人材の採用に向け、学校訪問や実習受け入れを積極的に行っている

求める人材の採用に向け、養成校への訪問や学生見学の受け入れを積極的に行っている。園長自ら母校などを訪問し、園の理念や保育内容、働きやすさについて丁寧に説明している。実習受け入れを通じて園の魅力を感じてもらい、採用につなげている。本部が作成したキャリアパスや資格取得支援制度についても具体的に説明し、将来の成長イメージを描けるようにしている。系列園への短期異動を通じて多様な経験を積ませるなど、将来の人材構成を見据えた配置を行っている。新人にはチューター制度を設けるとともに、指導担当者の指導力向上も図っている。

個人別年間研修計画に基づき、職員各自が必要な研修を受講できるようにしている

職員各自の意向や経験、今後のキャリア希望を踏まえ、個人別年間研修計画を策定している。上半期・下半期ごとに目標や到達したい姿を明確にし、年度末には振り返りを記載している。園長が助言と評価を行い、次の成長課題を整理している。等級別研修や区主催研修への参加も計画的に進め、特に1・2年目職員が必要な研修を受講できるようにしている。研修受講後はレポートを作成し、ファイル化して共有している。さらに、園内研修で食育や主体性保育、地域交流など園の課題に基づくテーマを設定するほか、職員間で日頃の気づきや工夫を話し合っている。

職員の勤務状況や職場における人間関係などに配慮し、改善を図っている

通年評価に基づく人事評価制度を運用している。一時的な成果だけでなく継続的な努力や姿勢を重視して処遇に反映している。賃金や昇格は評価結果と連動させ、公平性を確保している。また、勤務時間や休暇取得状況を把握し、全職員が均等に休暇を取得できるよう管理している。定期的な職員面談を通じてモチベーションや健康状態を確認し、必要に応じて業務調整を行っている。人間関係に課題が生じた場合は園長らが間に入り、対話を通じて改善を図っている。適切な人事管理・労務管理により、職員が安心して働き続けられる職場環境を目指している。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【課題・目標】

保育の質向上を目指し、職員一人ひとりが責任を持って主体的に業務に取り組む体制づくりを目標とした。

【取り組み】

年度当初に全職員と面談を行い、自己のスキルや心掛けを記入したシートを基に特性を把握し助言を行った。年4回の四半期面談では思いを否定せず、実現に向けたプロセスを自ら考え行動できるよう支援した。さらに、意見を形にする過程まで伴走し、自主性と継続的な提案意欲を育む体制を整えた。

【結果の検証】

職員から多様な意見が出るようになり、日々の配置表変更など実務に定着した成果もあった。一方で園としての妥当性を見極める必要も生じた。また、振り返りを促すことで自ら目標設定ができる職員が増えた。

【今後の方向性】

意見を出しやすい風土を維持しつつ、相談経路を副園長経由で園長へ報告する流れに明確化し、組織的に判断・共有できる体制を強化していく。

<p>目標の設定と 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった</li> </ul>
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</li> <li><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</li> <li><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

園では、園長交代があったため、職員一人ひとりの適性を把握しながら保育の質の向上を目指す必要があった。トップダウンでの保育ではなく、職員一人ひとりが自主性をもって働く事を目標とした。  
 具体的には、保育の質向上を目指し、職員が主体的に責任を持って業務に取り組む体制づくりを進めた。年度当初および四半期ごとの面談で個々の特性や思いを把握し、実現に向けたプロセスを自ら考え行動できるよう支援した結果、多様な意見が生まれ、配置表の見直しなど実務改善にもつながった。一方で意見の妥当性の精査も課題となったため、今後は相談経路を明確化し、組織的な判断と共有体制を強化していく。  
 課題・目標の設定(Plan)→具体的な取り組みの実施(Do)→取り組み結果の検証(Check)→次年度の取り組みへの反映(Action)という、PDCAサイクルに沿った運営をしている。

**評価項目2**

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

**前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)**

**【課題・目標】**

地域連携を積極的に行い、交流先を増やす事で子どもたちの活動の場を広げる。

**【取り組み】**

月に1度開催される芝支所会や公立園長会に参加し、区の取り組みや近隣の情報を収集する。さらに、職員一人ひとりも地域の情報を収集に努めることを、園の目標として設定する。

**【結果の検証】**

支所会から得た情報で三田いきいきプラザの屋上で実施しているはちみつ作り体験に年長児が参加することができた。職場体験先として、今まで交流がなかった施設との交流を行うことができた。さらに、担任からの発案で2歳児クラスが東京タワーに遠足に行くことができた。

**【今後の方向性】**

外部に目を向けられる職員が増えてきたが、職員全体での底上げを目指し、園内研修でチームをつくり改めて考える機会を設定する。

目標の設定と取り組み	<ul style="list-style-type: none"><li><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</li><li><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</li><li><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった</li></ul>
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"><li><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</li><li><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)</li><li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li></ul>
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none"><li><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</li><li><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</li><li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li></ul>

**評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評**

園では、前年度まで実施していた田植え体験の終了が決まったため、それに代わる交流先の検討が必要であった。そのため、地域連携を強化し、子どもたちの活動の場を広げることを目標に、芝支所会や公立園長会に参加して情報収集を行い、職員一人ひとりも地域情報の把握に努めた。その結果、年長児が三田いきいきプラザの屋上で実施しているはちみつ作り体験に参加し、新たな施設との交流や職場体験が実現したほか、2歳児の東京タワー遠足も実施できた。今後は園内研修でチーム検討を行い、職員全体の意識向上を図ることを目指している。

課題・目標の設定(Plan)→具体的な取り組みの実施(Do)→取り組み結果の検証(Check)→次年度の取り組みへの反映(Action)という、PDCAサイクルに沿った運営をしている。

## II サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
サブカテゴリー1の講評		
<p>SNSを開設し、幅広い層に向けた情報発信をスタートさせている</p> <p>昨年の10月よりSNSを開設して幅広い層へ向けた情報発信をしている。個人情報に配慮しつつ、園行事での子どもたちの活動や季節の制作物を通じて、園の取り組みを外部にも知ってもらおうことを目的としている。各クラスで撮影した写真も活用している。フォロワーも徐々に増えており、園の認知度向上につながっている。しかし、保護者への浸透はまだ課題であり、今後は「観るのが楽しみ」になるような内容を発信する工夫に期待したい。また、園では保護者への掲示物を通して閲覧を促していくことも考えており、その進展が期待される。</p> <p>2種類のホームページを活用しながら、情報発信の充実を図っている</p> <p>ホームページは、区が作成したものと園が作成したものの2種類がある。掲載される個人情報が異なるため内容は同一ではない。園のホームページは、園の様子が分かりやすく伝わるように工夫されており、内容の濃いものとなっている。今後、行事食などの特別メニューの配信や、地域の方々に知ってもらいたい園の魅力を発信していくことにも期待したい。また、地域子育て支援として毎月1回開催される「保育園で遊ぼう」については、園外で掲示を行い、年間スケジュールの持ち帰りも可能となっている。今後はSNSを活用した情報発信も検討している。</p> <p>「保活ワンストップ」を活用し、利用希望者へ個別かつ柔軟な対応を心がけている</p> <p>今年度より、園見学の申し込みをオンラインで完結できる「保活ワンストップ」を導入した。電話予約の方が依然として多いが、徐々に新システムの活用者も増えてきている。問い合わせに対しては、常に利用希望者の個々の状況に配慮し、柔軟な対応を第一に考えている。例えば、外国籍の家庭から問い合わせがあった際には、園の携帯にインストールされた翻訳アプリを使用したり、対面時は情報や表記を分かりやすいものになっている。口頭で意思疎通を図る際にも、その方に伝わる丁寧な対応に努めている。</p>		

サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
2	サービスの開始・終了時の対応		
<b>評価項目1</b> サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
<b>評価項目2</b> サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		○非該当
サブカテゴリ-2の講評			
<p><b>入園説明会や面談では、園長や副園長を中心に丁寧な説明を心がけている</b></p> <p>入園時には、園長、副園長による説明会に加えて、個別の面談を実施している。毎年20名強の新規入園の面談を、園長、副園長、クラスリーダーが担当して子どもの状況を詳細に確認後、栄養士による栄養面談も実施している。面談は基本的に土曜日に行われているが、保護者の都合に合わせて平日に実施するなど、可能な限り柔軟な対応をしている。サービス内容の変更など重要な事項については、連絡アプリを通じて保護者に配信している。配信内容への質問や意見は、副園長が中心となり園全体で統一した回答を行うようにしている。</p> <p><b>入園当初は、子どもも保護者も安心できる環境となるよう配慮している</b></p> <p>入園当初に、子どもと保護者の不安軽減のための相談を入園説明会後の面談で実施している。各家庭の生活や仕事の状況、子どもの状態を考慮したうえで、無理のないペースで園生活に慣れるようにサポートしている。例えば、保護者が子どもと一緒に保育室で過ごす時間を作るなど、親子ともに安心できる居場所となることができるようにしている。子どもの心の安定を第一に考えて個別対応を図っている。入園当日から一日利用する家庭の場合は、園での子どもの様子と家庭での様子を互いに詳しく伝え合い、保護者が安心して仕事ができるように心がけている。</p> <p><b>就学に向けての情報共有と、卒園後の生活を見据えた活動を取り入れている</b></p> <p>就学に向けて発達上の不安がある場合には、個人面談の時期に合わせて保護者に「就学支援シート」の活用を提案し、保護者の希望に応じて使用している。また、卒園後の生活を見据えて、学区の小学校や学童クラブとの連携を積極的に図っている。同一建物内の学童クラブとは運営会社が同じこともあり、密に連絡を取り合い、頻繁に交流している。近隣の小学校とは年数回、連携を行っている。保護者からの「就学に関する情報が欲しい」との意見を受け、小学校や学童クラブの情報や資料についても掲示している。</p>			

サブカテゴリ-3

3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	13/13
<b>評価項目1</b> 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当	
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当	
<b>評価項目2</b> 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当	
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当	
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	○非該当	
<b>評価項目3</b> 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当	
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当	
<b>評価項目4</b> 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り話し合う機会を設けている	○非該当	
サブカテゴリ-3の講評			
保育と発達の連続性を考慮しながら全体的な計画を作成し、月案などにつなげている 全体的な計画は、各クラスで見直しをした上で副園長が中心となり、一貫した保育の流れを考慮して調整・決定している。その後、3月の入園説明会前に全職員に周知している。月間指導計画(月案)は毎月20日、週間指導計画(週案)は前週の木曜日が提出日となっており、各クラスでの見直しがなされている。廊下に掲示された週案は子どもの状況に応じて流動的に変更しているため、変更時には必ず連絡用アプリで保護者に共有されている。指導計画は年度初めと年度途中の懇談会で、子どもの成長の姿と共に保護者に説明し、理解をもらっている。 子どもの個別の計画と記録を確認しながら、子どもの成長発達を園全体で見守っている 配慮の必要な子どもについては、定期的に来園する発達巡回指導員に、個別計画や記録、子どもの実際の姿を踏まえた助言をもらっている。指導員の専門的な視点から具体的な対応方法をフィードバックしてもらうことで、職員の育成にも役立っている。子どもの成長記録は、乳児は毎月見直して個別票に記載し、幼児は4期に分けて児童票に記載している。記録は、園長や副園長も確認している。多角的な視点で子どもの成長を見守る体制を整えている。また、不定期開催のクラスミーティングには副園長も参加し、必要なサポートをしている。 子どもとの関わりや保育手法に関して、職員間で話し合いがなされている			

職員は土日を含めてシフト制勤務をしていることで、担当クラス以外の様々な年齢の子どもたちと関わる機会が多い。これにより、職員が子どもたちの全体像を把握できると共に、他の職員の優れた保育手法を学ぶ機会にもなり、意識向上につながっている。一方、毎週金曜日13時半からの昼礼以外に職員が集まる時間を確保することが難しい現状がある。今後は、園全体で日々の保育の振り返りやエピソード事例などを共有し、子どもへの理解を深めるための時間を設けることが、さらに職員のやりがいと保育の質を高める上で有効であると考え

サブカテゴリ-5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
サブカテゴリ-5の講評		
<p>羞恥心に配慮した保育から、子どもは自分を大切にすることを学んでいる</p> <p>子どもの羞恥心に配慮し、0歳児から、おむつ交換や着替えを決まった場所で行うとともに、パーテーションで周囲の視線を遮っている。幼児クラスのトイレにはパーテーションを追加設置するなど、物理的な対策を講じている。子どもに、自分の体は大切なものであり、人に見せてはいけない、人に触らせてはいけないなど、自分の体を守ることを伝えている。その際には、口頭だけでなく絵本なども利用しながら、年齢に合わせた分かりやすい方法を考慮している。男性職員だけで保育を行わず、必ず女性職員がいる環境で保育を行うことも徹底している。</p> <p>個人情報保護方針に沿って保護者の同意を得ており、人権についての学びも深めている</p> <p>個人情報保護の方針に沿って入園時に保護者に説明し、同意書を提出してもらっている。また、一人ひとりの違いや子どもの意思を尊重し、比較することのない保育の実践に向け、職員の意識や資質向上のための研修会を設けている。年3回、人権チェックシートを活用した人権ミーティングもあり、グループごとに対話しながら学び合う場となっている。職員も互いに違いを認め合い、自分の考えや園としてどうあるべきかを考える機会となっている。さらに、虐待に関する研修を全職員が毎年オンラインで受講し、不適切な関わりがないようにしている。</p> <p>職員が、困りごとなどを一人で抱え込まないため、支え合うことの重要性を伝えている</p> <p>園長、副園長は「園全体で一人の子どもを育てる」という考えのもと、困りごとや困難な状況が発生した場合には、職員やクラス内だけで抱えこまず、困った時にはいつでも助けを求められる職員間の連携の重要性を伝えている。保育室から事務所に内線で連絡があれば、副園長がすぐにサポートに入っている。子どもの落ち着かない様子が見られた場合には、保育士と一緒に他のクラスで気分転換をするなど、柔軟な対応をしている。今後はさらに、職員間で遠慮せずに意見を言える雰囲気や関係性づくりの大切さについても共通認識を深めていくことに期待したい。</p>		

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
6	事業所業務の標準化		
<b>評価項目1</b> 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
<b>評価項目2</b> サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当	
サブカテゴリ-6の講評			
<p><b>業務の標準化のため、多岐にわたるマニュアルが整備されている</b></p> <p>多岐にわたる項目ごとにマニュアルが整備されている。これらは事務所に保管され、全職員がいつでも閲覧できる環境にある。年度当初の4月には、保育業務に関する基本マニュアルの読み合わせを行っている。その他、感染症マニュアルやアレルギー対応マニュアルなど重要な事項については、必要な時期にグループ単位で読み合わせを実施して全職員の理解を徹底しており、副園長も必ず参加している。玄関には、保護者閲覧用の運営規程や各種マニュアル、保健・安全計画、行政のマニュアルなどが設置されており、いつでも確認できるようになっている。</p> <p><b>指定管理園であるため、区と運営会社のマニュアルを併用している</b></p> <p>マニュアルは運営会社により一元管理されているが、改訂があった場合にはポータルサイトを通じて共有されている。園は指定管理園であるため、運営会社のルールと区のルールに異なる点がある場合には、区のマニュアルを優先している。また、複雑な状況において判断に迷う場合には、運営会社のルール改訂を待つのではなく、区の担当部署に直接相談して指示を仰ぐなど、迅速な対応を心がけている。2つの視点から保育のあり方を見直すことにつながっており、柔軟な発想の転換にもつながり、気づきを得ることができている。</p> <p><b>業務手順や保育の見直しにおいて、保護者や職員の意見を反映させている</b></p> <p>業務手順や保育サービスの見直しにおいて、保護者や職員の意見を反映させている。保護者からは意見箱や連絡アプリを通しての意見を把握しており、次年度に向けて2月ごろから検討している。職員の意見は各種会議やミーティングを通じて把握している。一方、運営会社がマニュアルを管理していることから、マニュアルの量が増え続ける傾向が見られているため、全職員が必要な内容を理解し、実践していくための工夫について検討を進めていくことも必要と思われる。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

		サブカテゴリ4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	36 / 36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		評点(000000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当	
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当	
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当	
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○非該当	
評価項目1の講評			
<p>子どもの成長に応じて、保育環境の見直しを定期的に行っている</p> <p>クラス会議で、子どもの発達や興味関心を確認し、玩具やコーナー作りを見直している。子どもたちの自由な発想で、遊びが広がることを大切にしている。制作活動では、材料の準備や道具使用のルールを決めた上で職員が見守っている。数名が協力して創ったり、継続できる場所や時間を保障し、完成する喜びにつなげている。2歳児は、ごっこ遊びや構成遊びのほか、コーナーの充実に努め、遊びを選ぶ環境を整えている。一方、0歳児は広い空間を仕切って遊んでいるが、音や他児の動きに影響される姿も見られており、月齢差に配慮した環境設定に期待したい。</p> <p>子ども同士が互いの気持ちに向き合えるよう、思いを伝え合う対話を大切にしている</p> <p>子どもの思いがぶつかるトラブルでは、双方の思いを受け止め、年齢に応じた援助をしている。言葉が未発達な乳児には、保育士が仲立ちとなり要求や思いを言葉や身体表現で伝えている。言葉で主張できる子ども同士のトラブルでは、発生状況を把握し、落ち着いて向き合えるように配慮している。保育士は、状況を振り返りながら相手の心情に気づける促しに努め、自分たちで考え解決する力を大切に積み重ねている。また、安易な言葉遣いで相手を傷つけないよう、「ちくちく言葉・ふわふわ言葉」で、子どもが言葉遣いを考えるきっかけを作っている。</p> <p>地区リーダー一園として保幼小の連携に積極的に取り組み、多様な交流を図っている</p> <p>近隣の小学校を訪問し、学校見学や授業体験を行い、就学後の環境に親しんでいる。さらに、地域の幼稚園や保育園と積極的に交流を図り、パラバルーン見学やホッケー教室、落語、みかん狩り等、互いの行事に招待し合っている。初めは戸惑う姿もあったが、交流を重ね、顔見知りの関係になると、遊びや会話を楽しむ姿が見られている。また、学童クラブの1年生と交流を行い、好奇心や遊びの広がりを育んでいる。就学する小学校や学童クラブに、保育児童要録を持参したり口頭で引継ぎを行うなど、子どもが新しい環境に無理なく移行できる支援に努めている。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
<p>家庭と園で子どもの健康や心身の共有に努め、生活の安定につなげている</p> <p>家庭と園で連絡アプリを共有し、生活や健康面等を記録している。0、1歳児は、受入れ時の視診を「視診票」に記録し、当番保育士と担任間で、引き継ぎシートと共に申し送りしている。引き継ぎシートには全園児の名前が記載され、登園・降園別に伝達事項等を記録し、伝達漏れを防いでいる。「今」、職員間で共有したい情報は、事務所入り口の伝達ノートや昼礼で周知している。保育活動は、連絡アプリでも配信し、幼児はトビックスを写真と共に伝えている。朝夕は、玄関入口の安全確認を行い、保護者との挨拶やコミュニケーションを大切にしている。</p> <p>身の回りの基本的な生活習慣が身につくよう、年齢や発達に応じた援助を大切にしている</p> <p>乳児期の生活基盤が整うように、月別に個別保育計画を立て、具体的な配慮事項を担当間で共有している。栄養面や健康面の配慮事項は、看護師や栄養士も加わって検討し個別支援に活かしている。1、2歳児は、一人ひとりに応じた援助ができるよう、2グループの少人数体制で、「自分でやりたい」気持ちやペースを見守り、意欲につなげている。子どもの状況に応じて、着脱しやすい箱椅子を置く工夫もしている。排泄は、トイレの環境に慣れ親しむ経験からタイミングをみて誘うなど、保護者と身体発達の共有を図りながら、個別に無理なく自立を促している。</p> <p>長時間保育に配慮し、個々に応じた睡眠や休息がとれる体制を整えている</p> <p>乳児は、家庭と1日の生理的リズムを共有し、個々の睡眠を保障している。0歳児は、敷布団にSIDS予防の体動マットを置き、睡眠観察票のチェックと共に安全を確保している。長時間保育の疲れに配慮して、子どもが安心して睡眠や休息がとれる環境を整えている。年齢に応じた睡眠時間にしてはいるが、短時間にして欲しいという個別の要望があれば、子どもの状況を踏まえて対応している。年長児は、就学後のリズムに配慮して、徐々に午睡を無くしている。また、目覚めた子どもが、自分の意思で布団から離れ、年長児の部屋で過ごす体制も整えている。</p>		
3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
<p>集団活動と自由遊びのバランスに配慮し、子どもの主体性を大切にしている</p> <p>園では、外部講師による英語、体操、音楽のプログラムと、行事や散歩、クッキング、食農活動、自由遊び等を融合させて、多様な保育構成を図っている。長い保育時間を考慮して主保育と自由遊びのバランスを大切に、子どもが遊びを選択できる空間作りにも努めている。各保育室の玩具棚や絵本棚は、年齢発達や興味関心に応じて見直している。ごっこ遊びや構成遊び、パズルや制作等、コーナーの工夫もしている。制作の継続ができる個別トレイや、国旗に関心を持った子どもの遊びがクラス全体に広がる等、子どもの主体性を大切にしている。</p> <p>散歩や園外保育を通して、自然の変化や風物に触れている</p> <p>園周辺は、都心のビル街だが、自然に富んだ公園や神社仏閣、文化施設にも恵まれている。子どもたちは散歩に出かけ、四季の変化や風物に触れている。春は、東京タワーの333匹の鯉のぼりや周辺の桜を観に行き、秋には紅葉や団栗拾い、ハロウィンやクリスマス飾り等、季節感を楽しんでいる。郊外への園外保育も行っており、自然や実物に五感で触れる経験をしている。また、保育室や廊下に、手作りのピオトープやハムスター、熱帯魚の水槽を設定している。子どもは、餌やりや名前をつける等、生き物への愛着や情操を豊かに育んでいる。</p> <p>当番活動やルールのある遊びを通して、集団の中で育つ力を大切に育んでいる</p>		

幼児は当番活動を行い、生活の中で自分たちができる事を手伝っている。年長児は、朝の会での挨拶や一言発表、給食の配膳、保育士から頼まれた手伝い等、みんなが気持ちよく過ごすために役割や約束事がある事を学んでいる。乳児期から、簡単なルールのある遊びをクラスで楽しみ、ホッケー教室では、ルールや点数による勝敗がある事を教わっている。勝った喜びや、負けたり失敗した時の悔しい気持ちを受けとめ、折り合いがつけられるように援助している。日々、じゃんけんやゲーム、鬼ごっこ等、ルールがあり、共同で楽しめる経験を積み重ねている。

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>行事は、子どもたちが主体で運営できる援助に努め、作り上げる満足感を大切にしている</p> <p>発表会に向け、年長児は「こども会議」で題材を出し合って決めている。毎年、歌や合奏、劇を融合させたオペレッタに挑戦しており、担任は、子どもの希望を反映させている。子どもが、劇の内容や役を話し合い、背景の制作や衣装作りにも取り組んでいる。去年の年長児の姿に憧れを抱き、表現方法の工夫や協力して作り上げる意欲を深め、やり遂げた満足感や達成感につながっている。3歳児は、「てぶくろ」のおはなしを軸に展開させ、4歳児は、できるようになった事、見て貰いたい事を物語に入れ、楽しんで参加することができている。</p> <p>夕涼み会では、子どもを真ん中に、園と保護者も共同で楽しんでいる</p> <p>夕涼み会では3、4、5歳児がお店番をして、保護者や職員と共に行事に参加している実感を得ることができている。お店には、輪投げやボーリング、かき氷屋さん、うちわ作りがあり、職員は本物のヨーヨー釣りで参加している。保護者や乳児が、お客になって来店してくれ、お店の人になりきって品物を渡してスタンプを押す等、やり取りのコミュニケーションや疑似体験を楽しむ事ができている。会場は、建物内の広いホールで行い、和太鼓や盆踊り等に取り組む年もある。園全体で、楽しい体験や人との関わりを共有でき、やり遂げた満足感につながっている。</p> <p>子どもたちが行事に取り組む様子や成長を発信し、保護者との共有に努めている</p> <p>新年度のクラス別懇談会で、行事日程や保護者参加の有無について説明を行い、理解を得ている。保護者と共に取り組む行事については、その意義を小規模運営委員会で伝えている。日々、連絡アプリや口頭で子どもたちが取り組む様子も伝え、保護者との共有に努めている。また、伝承行事の様子も含め、今年度よりSNSを活用した発信も行っている。行事後のアンケートでは、子どもの成長を喜ぶ声や、異年齢の姿から来年度へ期待する感想等が寄せられている。保護者の声や要望を把握し、行事の評価や反省を行い、次年度の行事に反映させている。</p>		
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>長時間保育は、日常の延長としてスムーズに移行ができる環境を整えている</p> <p>玄関入り口には、「おはよう」と「ごきげんよう」の当番保育士を紹介する掲示板があり、親子の安心感につなげている。延長保育専用の保育室があり、乳児・幼児共に年齢に応じた生活環境や玩具等を置いている。長時間保育の疲れに配慮して、乳児コーナーは量の環境で、ごろりと横になったり座り座り遊んだり、心身共に寛げる空間にしている。また、睡眠が必要な子どもには、寝具を準備している。安全面に配慮して、乳児、幼児、食事コーナーを分け、生活の流れが見通せる安心感や、個別の援助ができる環境を整えている。</p> <p>長時間保育の子どもに配慮し、動と静の活動のバランスを工夫している</p> <p>長時間保育の中で、子どもが心身ともに満足して過ごせるように、動的・静的な活動構成に配慮している。特に、おやつ後は、園庭遊びや園内探索に出かけ、身体を動かす活動のほか、保育室から新幹線や外の景色を眺めて気分転換を図る等、延長保育とのバランスを考慮している。延長保育用の玩具を整え、子どもが期待して遊びに向かえるよう、定期的に見直している。また、安全面に配慮して、異年齢が自然に関わって遊ぶ保育を取り入れている。年下の子どもを優しく気遣ったり、年上の姿に憧れを持つなど、子どもが育ち合う姿を職員は見守っている。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p>子どもが自分で食を摂り込む力を大切に、楽しんで食べる工夫もしている</p> <p>離乳食から、自分で食を摂り込む力を大切にしている。子どもの手掴み食を推奨し、噛みとるカや一口の量を知る等で、咀嚼や嚥下の力、脳の発育につながることを、保護者と共有している。栄養士は、喫食状況の巡回や、残食ポールの確認を行い、好き嫌いや嗜好の把握に努め、食育指導につなげている。例えば、園庭でピーマン栽培を行い、収穫後の種取りや断面の観察、グルタンにして喫食するまでを経験し、苦手な子どもも食べられるようになっている。ランチルームも活用し、自分で食べる量を考えて配膳をしたり、年齢に応じた工夫を重ねている。</p> <p>栽培活動やクッキング保育を通して、食への関心や意欲を育てている</p> <p>屋上農園やプランターで、乳児期から栽培活動や収穫を体験している。幼児は、クラス別に担当栄養士を配置し、毎月のテーマで「クッキング企画書」を作成している。子どもが収穫した野菜を食材に、パンケーキやおやき、夏野菜ピザ、焼きそば等のクッキングを行い、昼食やおやつで喫食するまでの一連の流れを体験している。また、手作り紙芝居「給食ができるまで」を教材に、食事が完成する過程を視覚で伝える工夫もしている。箸を使うための手指の協応動作をスポンジや煮干し、豆等で練習したり、食事マナーをクイズで伝えることもしている。</p> <p>保護者や地域の飲食店との関わりの中で、食に関する取り組みを豊かにしている</p> <p>園の給食について入園のしおりで周知を図るほか、日々の食育活動等の様子を保護者に発信し、家庭との共有を図っている。玄関通路に給食コーナーを設置し、毎日の献立や量が把握できるようにしている。その際は、子どもの視線の高さに考慮し、親子で給食の話ができるようにしている。献立表と共に、月2回人気メニューのレシピを作成し、家庭でも楽しんで貰えるようにしている。また、年長児は、近隣のカフェや中華店等の飲食店を訪問し、食材や料理についてのインタビューを通して、食に対しての知識を体感できるようにしている。</p>		
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>保健計画を基に、子どもが健康に関心を持つことを大切にしている</p> <p>看護師は、毎朝全クラスを巡回し、子どもの健康状態を把握している。連絡アプリで家庭と健康面を共有し、気になる様子がみられる時は、担任と連携して変化に対応できるようにしている。また、毎月の身体計測や怪我等の対応を通して、健康の大切さに気付くことができるようにしている。年間保健指導計画を基に、季節や年齢に応じた保健指導を行っている。感染症対策の手洗い指導も取り入れ、正しい手洗いが習慣化できる工夫をしている。園医による歯ブラシ指導や、教材を使ったプライベートゾーンの話等、身体を守る大切さを伝えている。</p> <p>子どもが、身の回りの安全に気付けるよう、職員間で共有を図っている</p> <p>園において、安全計画表(安全点検・安全指導・訓練の取り組み)が作成され、全職員で共有を図っている。安全指導は、生活安全・交通安全・災害安全に細分化され、年齢に応じた注意喚起や訓練内容等が表記されている。交通安全では、日常の戸外活動で道路の歩き方や横断歩道の渡り方を伝え、交通ルールを守る大切さを伝えている。毎月の避難訓練では、多様な保育形態に応じた訓練内容を想定している。子どもは、防災頭巾を被ったり机の下でダンゴ虫ポーズの態勢をとるなど、災害から身を守る方法を訓練を通して学んでいる。</p> <p>子どもの健康維持について、保護者との連携や情報共有に努めている</p> <p>送迎時に、口頭で子どもの健康面を伝え合い、体調の変化が生じた時は保護者と連絡を取り合う等、健康面の共有を図っている。毎月の保健だよりで、季節に応じた健康面や家庭で気をつけたい病気や事故予防の注意喚起等、多様な情報を発信している。また、感染症情報は、玄関入口の掲示板や連絡アプリを活用して、保護者に周知している。熱中症対策として、幼児クラスに水分タンクを常設して、家庭から持参した水筒に補充して、水分補給を行っている。夏のプール遊びや戸外遊びは、暑さ指数を確認し、日陰の風通しの良い場所で行っている。</p>		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当
評価項目8の講評		
<p>各家庭の状況の把握に努め、個々の状況に寄り添った支援に努めている</p> <p>園では、保護者の様々な就業条件に柔軟に対応できるように、早朝から夜の時間帯の保育、祝・休日保育等、多様な保育体制を整えている。入園面接時には、児童票や特定の様式で、家庭状況や子どもの成育歴、健康面、栄養面、個別配慮等の確認を行い、園全体で共有化を図っている。保護者からの要望や相談は、日々の会話や連絡アプリ、個人面談等で受け、要望に応じて時間帯を調整し、ゆっくりと話し合えるようにしている。園長・副園長は、直接保護者の思いや考えを聞く姿勢を大切に考え、園への信頼につなげている。</p> <p>懇談会や親子行事を通して、保護者が交流できるようにしている</p> <p>クラス毎に懇談会を開催し、年間指導計画や子どもの姿、行事等について伝え、保育内容を説明している。懇談会では、保護者が交流するきっかけ作りをしている。例えば、自己紹介を兼ねて名前の由来を話したり、簡単なゲームを楽しんだり工夫をしている。0歳児は、子育てを共有するコーナーを作り、保護者が付箋にメモをして模造紙に貼る等、無理なく誰でも参加できる工夫をしている。また、親子行事では、参加しやすい曜日への配慮や、行事やイベントの手伝いを呼びかけている。職員や保護者同士、交流を図りながら、共に行事を作り上げている。</p> <p>保育参加や個人面談の取り組みで、保護者の子育て支援につなげている</p> <p>今年度より、全クラスで保育参加を実施して、子どもの成長を共有し、保育への理解を深めている。クラス毎に事前アンケートで日程調整を行い、食事の場面以外の午前と午後の活動に参加して貰っている。絵本の読み聞かせや外遊び、散歩等、子どもの中に入って活動する事で、「保育の大変さを理解した」「安全面の配慮を知れた」「保育士の見方が変わった」等、保育の見える化につなげている。年2回の個人面談では、前半は子どもの様子を伝え合い、後半は成長した姿の共有と、進級後の姿を見通した話や子育て相談に応じる等、育児支援に努めている。</p>		
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>年長児が職場体験を通して、多様な仕事を知る経験をしている</p> <p>年長児は、地域にある商店や公共施設に向向き、多様な職場を知る活動を取り入れている。園周辺の社会環境や、働く人々の姿を実際に見聞きしている。近隣のハンバーガー店やコーヒー店等の飲食店、芝地区のショップ店、区役所、警察署、消防署等に、事前に協力を依頼することで実現に至っている。「クラス会議」で訪問先の場所や仕事内容を考えたり、インタビュー内容について話し合うなど、事前準備を重ねている。訪問する体験を通して、多様な仕事に親しみ、社会性を広げることに役立っている。</p> <p>児童館や高齢者施設と交流を行い、伝承遊びや文化に触れる経験をしている</p> <p>園の建物内には、高齢者施設や学童クラブが併設されており、日頃から交流を図っている。学童クラブの小学生と定期的に交流を行い、一緒に遊んだり、こま回しやけん玉等、伝承遊びを教えて貰ったりしている。また、ハロウィン等の季節行事の交流を通して、年長児は、小学生への憧れや就学後の生活に触れている。高齢者との世代間交流も図り、高齢者から習字を教えて貰うこともしている。乳児から習字に親しみ、一人ひとりの書初めを掲示している。玄関には、子どもが習字で書いた園目標が掲示されており、伝統文化を大切に継承している。</p> <p>地域の中核保育園として、積極的な地域交流を行っている</p> <p>園では、地域交流に力を入れて取り組んでいる。近隣保育園を誘ったり訪問し合うなどの交流を積み重ね、相互に良好な関係を築いている。例えば、2歳児と4歳児は、同年齢のクラスと交流を行い、一緒に遊んだり移動水族館、移動動物園等の行事に招いたりしている。年齢が上がっても継続した交流ができることで、子ども同士が親しみを持てるようにしている。また、一時保育では、同年齢でのクラス保育を行い、自然に慣れ親しむことができている。一時保育の子どもが、園児と遊んだり生活をしたりする姿に触れ、保護者の保育への理解が深まっている。</p>		

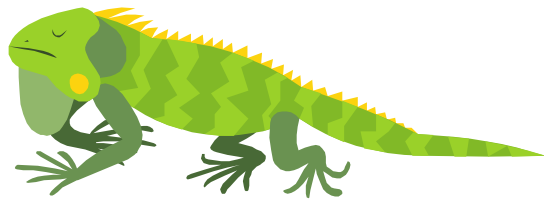
事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	5-1-2	事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している
タイトル①	職員の採用と育成について計画的な取り組みを進め、職員の成長をサポートしている	
内容①	職員の採用と育成について、園長が中心となり計画的に取り組を進めている。園長が養成校へ訪問したり、学生見学の受け入れを通じて園の理念や保育実践を伝え、採用につなげるように努めている。新人職員にはチューター制度を導入し、日常の保育場面での助言や振り返りを行っている。個人別年間研修計画を活用し、目標設定から振り返りまで一貫した育成を行っている。等級別研修や区の研修にも参加し、学びを広げている。園内研修では地域交流や主体性保育などをテーマに設定し、組織全体で職員の成長を支える体制を整えている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-6	子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している
タイトル②	複数の栄養士が連携し、食の営みが生きる力につながる食育を豊かに展開している	
内容②	幼児は、クラス別に栄養士を配置し、年齢に応じた食育を推進している。毎月、栽培物の野菜や旬の食材をテーマに、クッキング企画書で献立の創意工夫を図っている。葉物野菜を手で千切る、ピーラーの皮むき、包丁を使う等、段階的に経験を重ねている。屋上農園や園庭のプランターで、種蒔きから収穫までの栽培活動を行い、収穫と調理、喫食をつなげている。例えば、収穫したとうもろこしの皮むきやひげ取り、茹でたり焼いたり、匂いや味を体感で受けとる食育と食農の融合を目指している。一連の食の営みに触れ、豊かな食の文化と生きる力を育てている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-5-2	サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している
タイトル③	人権ミーティングでの対話が職員の気持ちをひとつにつないでいる	
内容③	人権チェックシートを活用して年3回のアンケートをとるに留まらず、定期的に振り返る機会を設けている。その振り返りの場である人権ミーティングは、経験年数ごとのグループに分かれて園長、副園長が一人ずつ入っての話し合いをしている。それぞれの違った考えを共有しながら、職員が人権について広く深く考えていく貴重な時間となっている。人権ミーティングの対話を積み重ねることにより一人の問題ではなく「人権を尊重するとは？」について園全体で同じ方向を向き、子どもたち一人ひとりの違いを尊重した保育を行うことにつながっている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	園長や副園長が中心となり、職員が意見を言いやすく、互いに尊重し合う職場風土の醸成を図っている
	内容	園長・副園長が中心となり、職員が安心して意見を述べられる職場環境づくりを進めている。四半期ごとの面談では役割や目標を確認し、課題や悩みを共有している。園長・副園長会議では園運営や保育内容に関する重要事項を協議し、必要に応じて全体リーダーも加えて意思決定している。クラス会議は事前に議事次第を作成し、効率的かつ建設的な話し合いを行っている。園長や副園長が状況に応じて参加し、職員間の対話を支援している。人間関係で課題が生じた場合には園長が調整を図るなど、職員同士が互いを尊重し合う風土の醸成を図っている。
2	タイトル	地域の社会的資源を活用し、子どもが様々な体験を通して社会性や人との豊かな関わりを広げられる保育に取り組んでいる
	内容	園は、保幼小連携の交流や建物内の学童クラブ、高齢者施設との交流、地域商店の訪問等、様々な経験ができる保育を展開している。年長児は、近隣小学校の見学や授業体験、学童クラブの1年生との異年齢交流等、就学後の環境に慣れ親しむ工夫をしている。近隣園間で、みかん狩りやホッケー教室、落語等に招待し合い子どもの世界を広げている。2歳児や4歳児は、近隣園と同年齢の交流を計画し、次年度につなげている。また、高齢者から習字を教わったり地域商店を訪問したり、多世代間交流で生活や文化に五感で触れ、社会への関心や好奇心を育てている。
3	タイトル	保護者との対話を大切にして運営委員会の開催方法を見直し、園の運営について意見を聞きながら課題解決につなげている
	内容	年2回の合同運営委員会や、今年度からスタートした小規模運営委員会が、保護者の意見を吸い上げる仕組みとして機能している。アプリを通じたアンケートで意見を募りながら、保育園内で今起きている問題や質問、意見、相談などが提起された際にスピーディーな開催を心がけている。園側が回答を準備するのではなく、保護者と一緒に解決策を話し合う場としての位置づけをしている。保護者は安心して意見を発信でき、園側は保護者との対話を通じて協力して課題解決をしていく一体感が芽生えている。議事録は全保護者に配信され透明性を確保している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	子どもが主体的に遊ぶ環境作りを目指しているが、特に、乳児期から好きな遊びに集中できる環境作りの取り組みを望みたい
	内容	保育環境は定期的に見直し、子どもの成長に合わせた環境構成に努めている。園内研修で、主体的な遊びの環境について、クラス毎に発信している。1,2歳児は、月齢や発達に応じた援助ができるように2グループに部屋を分け、少人数の安定した環境に配慮している。0歳児は、広い空間を身体を動かした遊び、座位での遊び、食事コーナー等に仕切り、全体把握が可能な環境にしている。子どもの視点では、仕切りが低く他児の声や動きに影響されてしまい、遊びが中断される環境となっている。月齢差を配慮し、好きな遊びができる環境の工夫を望みたい。
2	タイトル	職員の仕事の進め方などを見直し、全職員が働きやすい職場環境の実現につなげていくことが期待される
	内容	園の課題として、業務負担の偏りや報告・連絡・相談のルートの不徹底が挙げられる。担当や係ごとの役割分担を見直し、適性を踏まえた業務配分を進めているが、さらなる改善が求められている。社会人としての基本的な仕事の進め方や組織内での報告経路を改めて確認する必要がある。また、職員一人ひとりの経験則に頼るのではなく、園としての共通ルールを明確にし、中間層も含めた意識統一を図ることも必要と思われる。係内での協働や情報共有の徹底を進めることで、全職員が働きやすい職場環境の実現につなげていくことが期待される。
3	タイトル	職員間の情報共有に加え、全園児への視点について職員間で共通認識を深めていく機会を検討していくことに期待したい
	内容	園全体の情報共有のため、毎週金曜日の午後13時半から30分間の昼礼で行われ、園長、副園長、調理スタッフ、各クラスからリーダー、サブリーダーなどが週替わりで参加している。内容は、子どもの個別状況、食事、ヒヤリハット以外にも多岐にわたり、その報告は非常勤職員も含む全職員に共有されている。しかし、日々の保育中の実践事例や、保護者とのエピソード、子どもの成長発達などをリアルに伝えあう時間も別に確保し、全園児への視点について職員間で共通認識を深めていくことも必要と思われる。今後の検討に期待したい。

## 第二章 利用者調査結果



# 港区立神明保育園 【利用者調査結果】

2026年1月

- 調査期間 : 2025年11月11日～12月5日
- 利用者総数 : 129 名
- 調査対象者数 : 108 名
- 有効回答者数 : 56 名
- 回答率 : 52 %
- 調査方法 : WEBによるアンケート調査



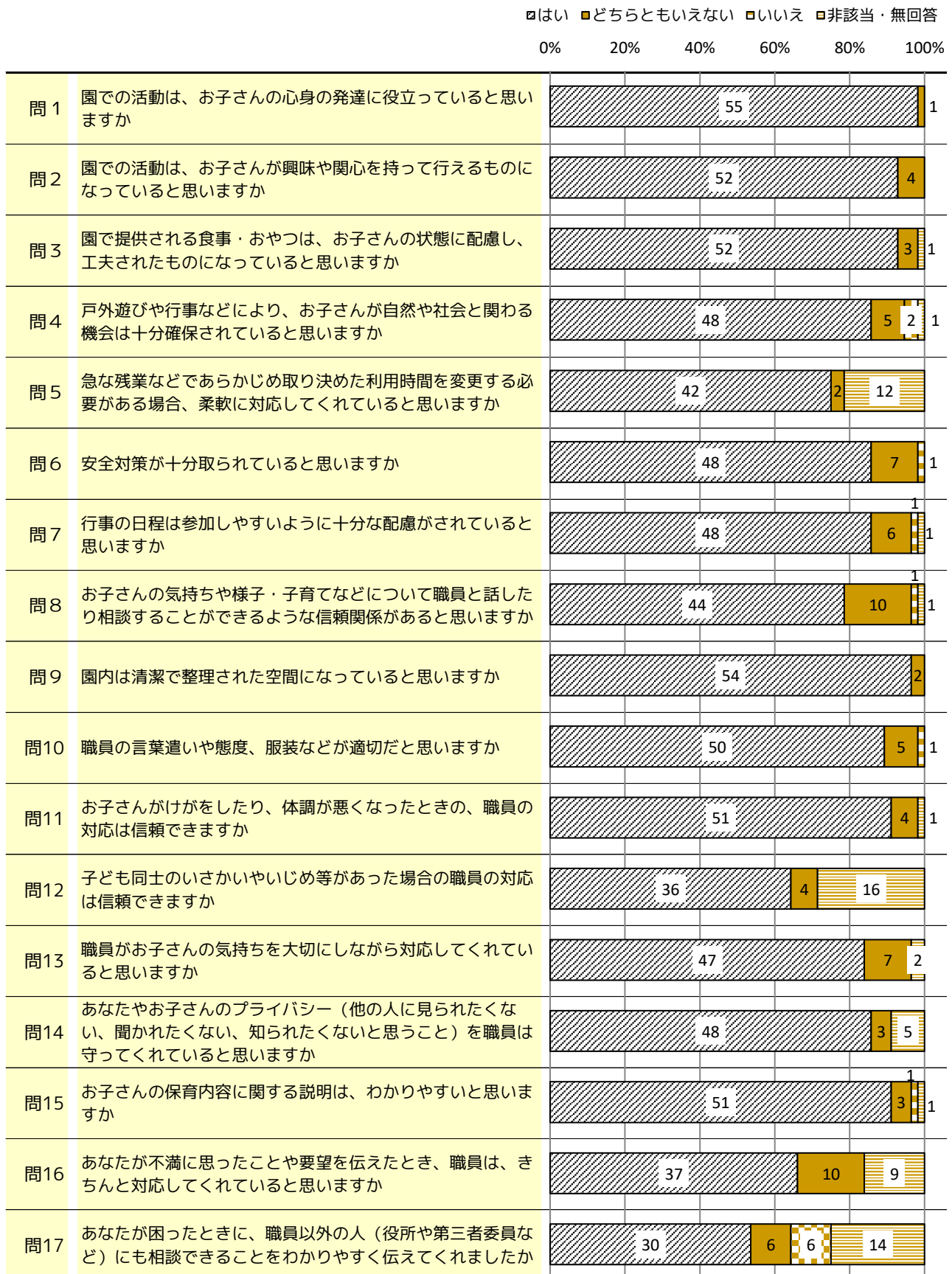
Japan life care

株式会社 日本生活介護

		実数				%			
		はい	どちらでもない	いいえ	非該当・	はい	どちらでもない	いいえ	非該当・
問1	園での活動は、お子さんの心身の発達に役立っていると思いますか	55	1	0	0	98%	2%	0%	0%
問2	園での活動は、お子さんが興味や関心を持って行えるものになっていると思いますか	52	4	0	0	93%	7%	0%	0%
問3	園で提供される食事・おやつは、お子さんの状態に配慮し、工夫されたものになっていると思いますか	52	3	0	1	93%	5%	0%	2%
問4	戸外遊びや行事などにより、お子さんが自然や社会と関わる機会は十分確保されていると思いますか	48	5	2	1	86%	9%	4%	2%
問5	急な残業などであらかじめ取り決めた利用時間を変更する必要がある場合、柔軟に対応してくれていると思いますか	42	2	0	12	75%	4%	0%	21%
問6	安全対策が十分取られていると思いますか	48	7	1	0	86%	13%	2%	0%
問7	行事の日程は参加しやすいように十分な配慮がされていると思いますか	48	6	1	1	86%	11%	2%	2%
問8	お子さんの気持ちや様子・子育てなどについて職員と話したり相談することができるような信頼関係があると思いますか	44	10	1	1	79%	18%	2%	2%
問9	園内は清潔で整理された空間になっていると思いますか	54	2	0	0	96%	4%	0%	0%
問10	職員の言葉遣いや態度、服装などが適切だと思いますか	50	5	1	0	89%	9%	2%	0%
問11	お子さんがけがをしたり、体調が悪くなったときの、職員の対応は信頼できますか	51	4	0	1	91%	7%	0%	2%
問12	子ども同士のいさかいやいじめ等があった場合の職員の対応は信頼できますか	36	4	0	16	64%	7%	0%	29%
問13	職員がお子さんの気持ちを大切にしながら対応してくれていると思いますか	47	7	0	2	84%	13%	0%	4%
問14	あなたやお子さんのプライバシー（他の人に見られたくない、聞かれたくない、知られたくないと思うこと）を職員は守ってくれていると思いますか	48	3	0	5	86%	5%	0%	9%
問15	お子さんの保育内容に関する説明は、わかりやすいと思いますか	51	3	1	1	91%	5%	2%	2%
問16	あなたが不満に思ったことや要望を伝えたとき、職員は、きちんと対応してくれていると思いますか	37	10	0	9	66%	18%	0%	16%
問17	あなたが困ったときに、職員以外の人（役所や第三者委員など）にも相談できることをわかりやすく伝えてくれましたか	30	6	6	14	54%	11%	11%	25%

「実数」… 実際に答えた人の数

「%」… それぞれの実数が有効回答者数に占める割合

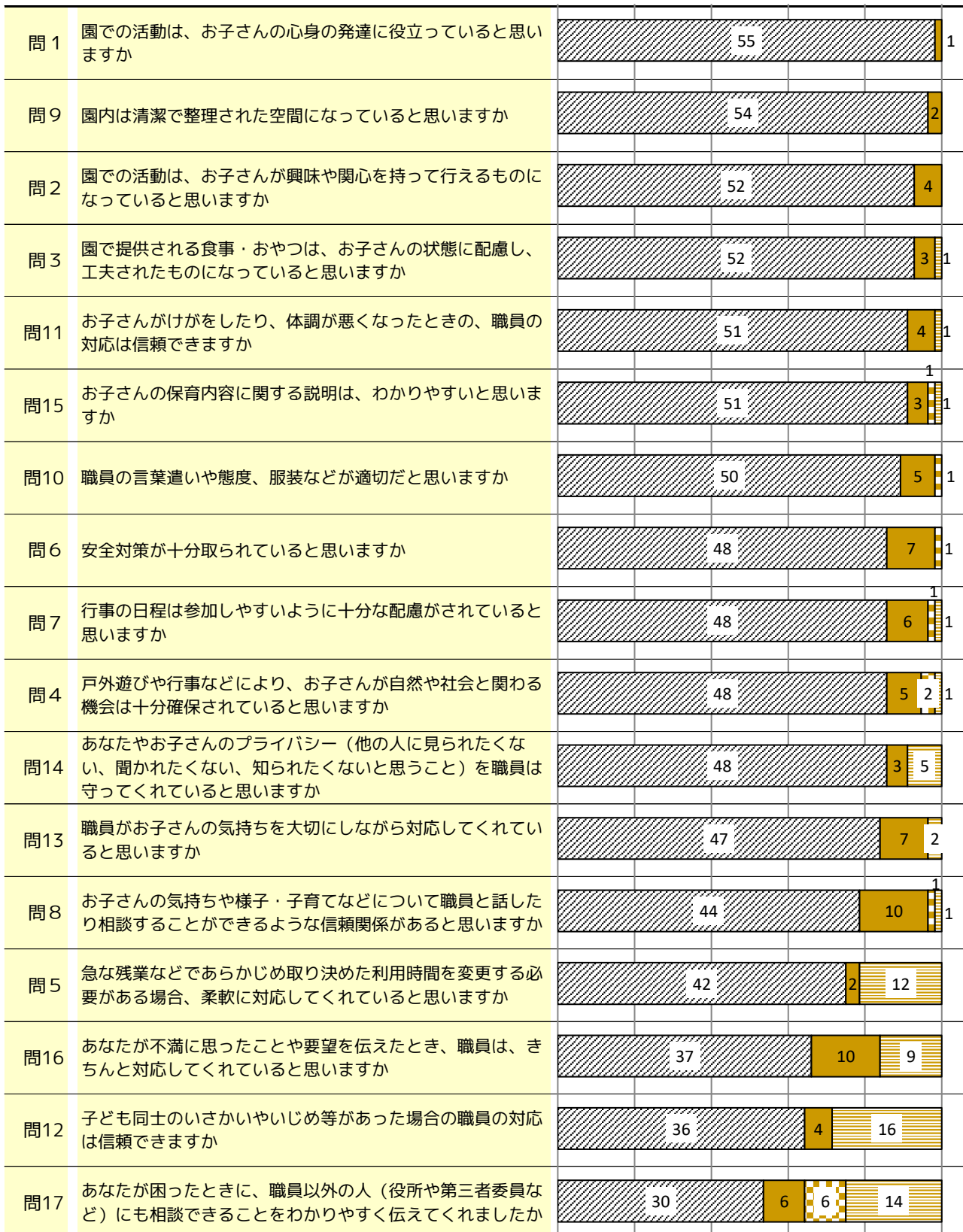


※グラフは有効回答者数に対する割合

※数値は各選択肢（はい・いいえ等）の実数

●「はい」の回答の多い順

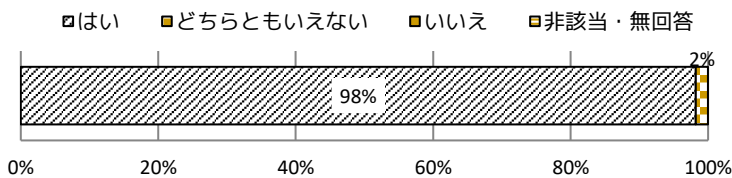
□はい ■どちらともいえない □いいえ □非該当・無回答  
0% 20% 40% 60% 80% 100%



※グラフは有効回答者数に対する割合

※数値は各選択肢（はい・いいえ等）の実数

問1 園での活動は、お子さんの心身の発達に役立っていると思いますか



◆「はい」のコメント◆

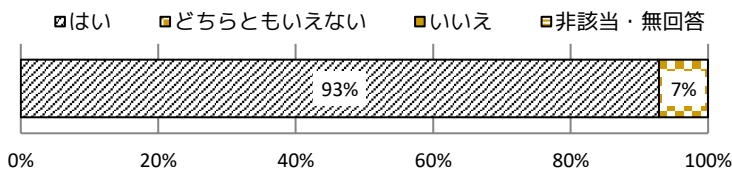
- ・夏場はお散歩や園庭遊びができず運動不足な様子でしたが、通常天候時は、のびのびと遊んでいる姿を拝見してありがたい限りです。
- ・入園してから、言葉の数がたくさん増えました！
- ・ハサミやのりなどを使っての創作活動を行っており、家ではハサミは危ないからとあまり触らせていなかったのだが、ちゃんと使えるようになっていて驚いた。
- ・ご飯を食べるのも上手になり、とても生き生きしている。
- ・先生はよく面倒を見ていただいていると思う。

◆「どちらともいえない」のコメント◆

◆「いいえ」のコメント◆

◆「非該当・無回答」のコメント◆

問2 園での活動は、お子さんが興味や関心を持って行えるものになっていると思いますか



◆「はい」のコメント◆

- ・工作、ダンス、歌などを子ども達が頑張っており、発表する機会も多くとても良い。
- ・楽しそうに登園する様子から、そのように感じます。
- ・先生が少なく大変だと思うので、増員できるといいと思います。

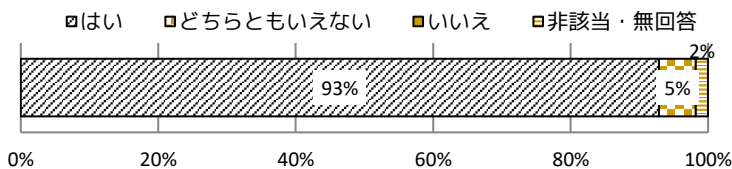
◆「どちらともいえない」のコメント◆

- ・まだ、月齢差で発達に差があるため、子どもにとってクラスでの生活は物足りなさを感じている。
- ・夕方だと疲れてるのか皆、固まって座っている(特に何もしていない)ことが多い。

◆「いいえ」のコメント◆

◆「非該当・無回答」のコメント◆

問3 園で提供される食事・おやつは、お子さんの状態に配慮し、工夫されたものになっていると思いますか



◆「はい」のコメント◆

- ・家で大したものを食べさせられないこともあり、大変助かっている。
- ・偏食が酷かった我が子ですが、保育園の食事はよく食べています。
- ・給食やおやつのお話をよくしてくれ、おいしそうな様子が伝わります。
- ・延長保育で夜ごはんをいただく時、帰宅してからお腹すいたということも割と多いので、特に夜の量が十分なのか気になることがあるが、概ねご対応には満足しています。
- ・毎日完食です。
- ・家では野菜を中々食べてくれないので、給食は大変ありがたいです。
- ・同一年齢でも個体差が大きいので、量が十分なのか不明。

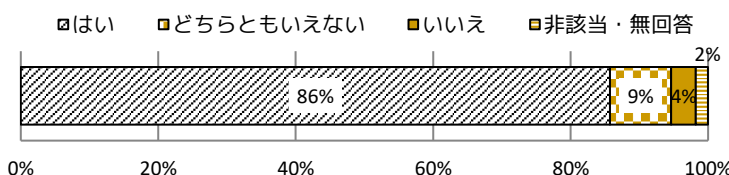
◆「どちらともいえない」のコメント◆

- ・子どもが望んだ時に、お代わりできるようにしてほしい。

◆「いいえ」のコメント◆

◆「非該当・無回答」のコメント◆

問4 戸外遊びや行事などにより、お子さんが自然や社会と関わる機会は十分確保されていると思いますか



◆「はい」のコメント◆

- ・年少で運動会を開催していただけたのはありがたかったですし、とても感動しました！
- ・十分良くしていただけていますが、クラスによってお散歩の頻度や方針が異なるなど感じるがありました。
- ・園の周りには公園が多く、普段からよく連れ出していただいていると思う。
- ・年少さんに上がると活動が増える印象です。
- ・都会的な立地であり、区の公園再整備を期待します。

◆「どちらともいえない」のコメント◆

- ・都会という立地を考えると、たくさん公園があってお散歩に連れていってくださるので、ありがたいです。社会とのつながりは、ハロウィンくらいしか思いつきません。
- ・年齢クラスや担任による。
- ・クラスの人数が多いことや低年齢のため、頻繁な行事や屋外活動は難しいかもしれないが、もう少し行事や自然と関わるとうれしい。

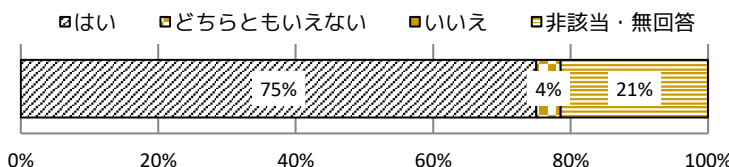
◆「いいえ」のコメント◆

- ・行事が少ないように感じる。
- ・毎日外にお散歩へ行っていない様子。

◆「非該当・無回答」のコメント◆

- ・まだ0歳児クラスのため、活動機会が少なく、わからない。

問5 急な残業などであらかじめ取り決めた利用時間を変更する必要がある場合、柔軟に対応してくれていると思いますか



◆「はい」のコメント◆

- ・比較的柔軟な対応をいただいていると思います。
- ・当日でもご対応いただき、本当にありがとうございます。
- ・いつも助かっています。ありがとうございます。
- ・電話で延長保育の申し込みができるのはありがたいです。
- ・当日でもご対応いただき、これ以上ないほど非常にありがたいです。

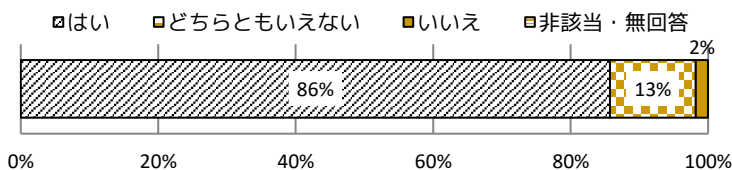
◆「どちらともいえない」のコメント◆

◆「いいえ」のコメント◆

◆「非該当・無回答」のコメント◆

- ・一度も遅れて延長などの対応をいただいたことはありません。
- ・延長したことがないため。

問6 安全対策が十分取られていると思いますか



◆「はい」のコメント◆

- ・子どもの責任でけがをした場合に、逐一連絡くださいますし、応急処置も適切です。
- ・夏場、危険な場所、課外活動時など、安全へのご配慮賜りまして、本当に感謝申し上げます。先生方の心身の健康にも、十分にご留意いただきたいです。
- ・カードを持った人の後ろから入れないよう、入り口のセキュリティをもう少し高めてほしい。
- ・何かあった際には、すぐに連絡をいただけるので、信頼して子どもを預けられる。

◆「どちらともいえない」のコメント◆

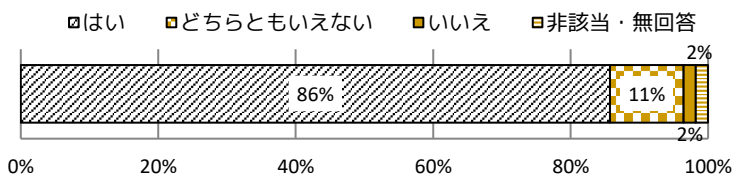
- ・園内のドアの鍵を閉めるように言われるが、先生が閉めていないことも多々ある。
- ・対策いただいていると感じるが、まだ改善の余地があると思う。

◆「いいえ」のコメント◆

- ・0歳児は3人に対して1人の保育者が見ているが、誰も見ていない状況になっている時があると外から見ていて感じる。0歳児は興味で顔を叩いたりしてしまうので、その辺りは保育者がけがをしないように目を離さず見てほしい。

◆「非該当・無回答」のコメント◆

問7 行事の日程は参加しやすいように十分な配慮がされていると思いますか



◆「はい」のコメント◆

- ・遠足の朝のお弁当の準備は、共働き世帯にとっては、やや厳しい時があります。
- ・早め早めに通知していただけているので助かっています。

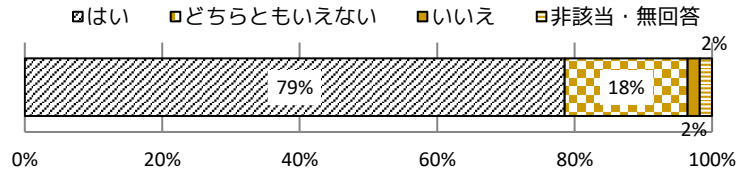
◆「どちらともいえない」のコメント◆

・平日のイベントの場合は、複数の候補日があった方が参加しやすいと思います。

◆「いいえ」のコメント◆

◆「非該当・無回答」のコメント◆

問8 お子さんの気持ちや様子・子育てなどについて職員と話したり相談することができるような信頼関係があると思いますか



◆「はい」のコメント◆

・偏食の件では、たくさん相談に乗ってくださって助かりました。

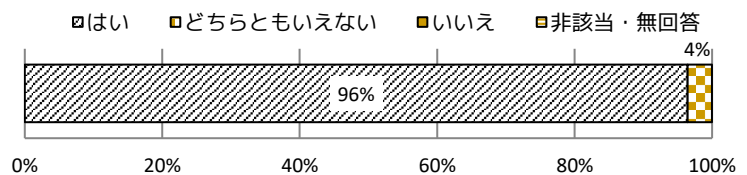
◆「どちらともいえない」のコメント◆

- ・面談以外は忙しい様子です。
- ・先生によるところが多い。クラスの先生はいるが、登校園の時間に対面できる機会は限られている。
- ・特定の先生とは、そういう関係で感謝いたしますが、クラスの他の先生にはそういう態度は見られません。
- ・話せそうな先生もいるが、相談しづらいと感じる先生もいる。
- ・私も先生方もバタバタしていて、話す雰囲気ではない。

◆「いいえ」のコメント◆

◆「非該当・無回答」のコメント◆

問9 園内は清潔で整理された空間になっていると思いますか



◆「はい」のコメント◆

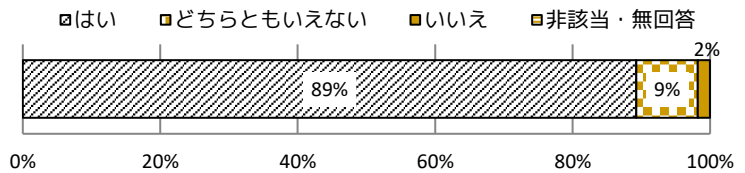
- ・靴箱がある床を夕方にも掃除していただけるとありがたい。砂がたくさん落ちているので、土足から園内に上がる時に足裏に砂がたくさんついてしまいます。
- ・夏場は害虫がいることがあり、早期に駆除いただきたい。
- ・いつも丁寧にお掃除いただき、本当にありがたいです。

◆「どちらともいえない」のコメント◆

◆「いいえ」のコメント◆

◆「非該当・無回答」のコメント◆

問10 職員の言葉遣いや態度、服装などが適切だと思いますか



◆「はい」のコメント◆

・ほとんどの先生は適切だが、声かけの内容や子どもへの態度を改めてほしい先生もいる。保護者と積極的に関わってもらえたらいいと思う。

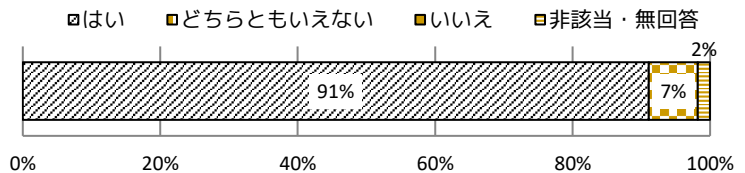
◆「どちらともいえない」のコメント◆

・子どもへの対応が冷たいと感じる時がある。  
 ・ほとんどの先生は身だしなみや態度がしっかりしていると思いますが、一部の先生方は派手だなど思うことがあります。身だしなみが自由な規則なら良いのかもしれませんが。  
 ・事務所は自由に話して良い空間だと思いますが、玄関を通る時に事務所にいる先生方はちょっと賑やか過ぎると思う時があります。

◆「いいえ」のコメント◆

◆「非該当・無回答」のコメント◆

問11 お子さんがけがをしたり、体調が悪くなったときの、職員の対応は信頼できますか



◆「はい」のコメント◆

・少々の子がでもご連絡いただきありがたいですが、先生の手間が増えているのではないのでしょうか？

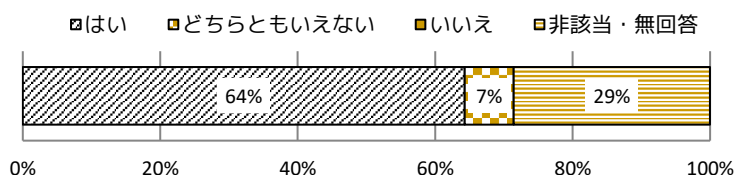
◆「どちらともいえない」のコメント◆

・対応は信頼できるが、けがをした時の状況を口頭で聞いてもよくわからないため、映像で見せてほしい。  
 ・けがをした際に連絡がなく放置されたケースあり。  
 ・首からは連絡きますが、迎えに行ったら顔が傷だらけのことがありました。自分で引っ掻いたのかもしれませんが、一言あっても良いのではと思いました。

◆「いいえ」のコメント◆

◆「非該当・無回答」のコメント◆

問12 子ども同士のいさかいやいじめ等があった場合の職員の対応は信頼できますか



◆「はい」のコメント◆

・先生による。年中、年長になると、先生の配置も少ないので、全員をずっと見ている訳ではないと思うので、子どもが黙っている時もある。

◆「どちらともいえない」のコメント◆

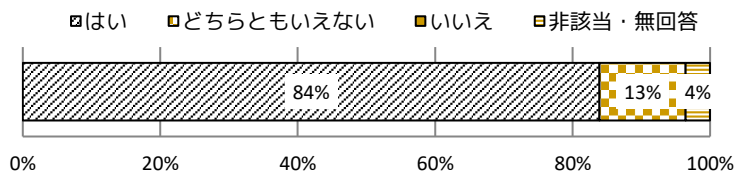
・上のクラスに上がるほど、先生の目が行き届いていないと感じることがあります。見ていなかった、と言われたことが何度もあり、少し心配です。

◆「いいえ」のコメント◆

◆「非該当・無回答」のコメント◆

- ・経験がない。
- ・そのような状況になったことがないため。
- ・報告を受けたことはないが、いじめ・いさかいがの有無はわからない。
- ・そのような経験がない。

職員がお子さんの気持ちを大切にしながら対応してくれていると思いますか



◆「はい」のコメント◆

- ・発達に凸凹がある子にも真摯に向き合ってくれていることに感謝しています。本当にありがたいです。安心して預けることができます。
- ・子どもがとっても懐いているので、いい関係性を築いてくださっているのだなあと感じました。

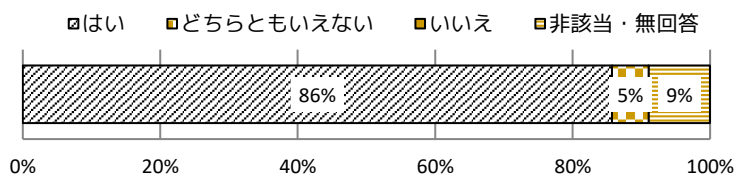
◆「どちらともいえない」のコメント◆

- ・見ていて人数が多いので、対応できないことが多いように見えます。先生の人数も子どもに対して決められた数いらっしゃいますが、そうなってしまうのは保育園だからと諦めています。
- ・子どもを悪者かのように接していたのを見た時は悲しくなるので、適切な対応をしてほしい。

◆「いいえ」のコメント◆

◆「非該当・無回答」のコメント◆

あなたやお子さんのプライバシー（他の人に見られたくない、聞かれたくない、知られたくないと思うこと）を職員は守ってくれていると思いますか



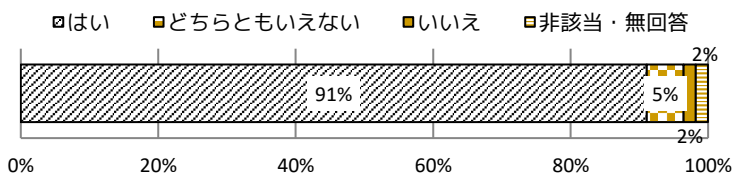
◆「はい」のコメント◆

◆「どちらともいえない」のコメント◆

◆「いいえ」のコメント◆

◆「非該当・無回答」のコメント◆

問15 お子さんの保育内容に関する説明は、わかりやすいと思いますか



◆「はい」のコメント◆

◆「どちらともいえない」のコメント◆

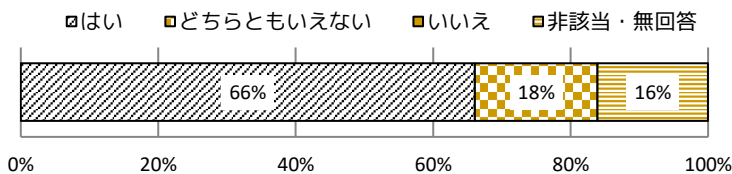
- ・説明はあまり受けない。
- ・わかりやすいというか、かなり簡潔です。
- ・今日こんなことがあったと話してくれる担任もいれば、毎回「今日も元気でした」しか言わない、こちらからは聞きにくい雰囲気担任もいる。

◆「いいえ」のコメント◆

- ・資料が間違ってることが、よくある。

◆「非該当・無回答」のコメント◆

問16 あなたが不満に思ったことや要望を伝えたとき、職員は、きちんと対応してくれていると思いますか



◆「はい」のコメント◆

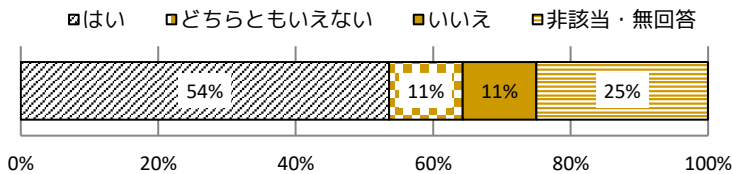
◆「どちらともいえない」のコメント◆

- ・保育中の写真がコドモンを経由することにより、有料になった。写真を選ぶための画像の画質が悪くて、小さく映ってるものと子どもが映ってるのか判別できないものも多い。めちゃくちゃ安い訳でもないのに、よく映ってるかわからない写真も購入しないと、子どもがどんな顔をしてるのかもわからないのが使いづらい。
- ・送り迎え時は、担任の先生ではないため、伝言だと伝わっていない時や、反応が遅い時がある。

◆「いいえ」のコメント◆

◆「非該当・無回答」のコメント◆

問17 あなたが困ったときに、職員以外の人（役所や第三者委員など）にも相談できることをわかりやすく伝えてくれましたか



◆「はい」のコメント◆

## ◆「どちらともいえない」のコメント◆

- ・場所があることは知っていますが、園からの情報じゃないかな。
- ・そういった機会がなかったので、よくわかりません。

## ◆「いいえ」のコメント◆

## ◆「非該当・無回答」のコメント◆

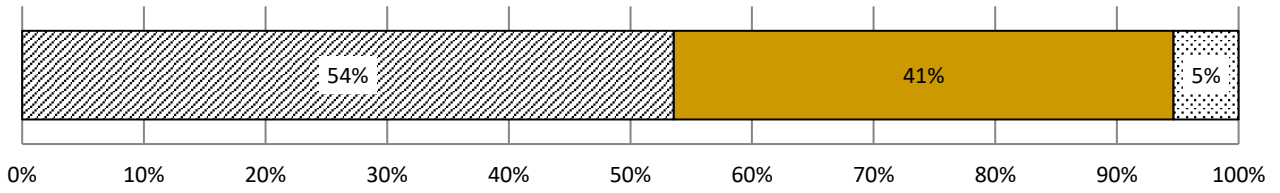
## ◆ 日頃お感じになっている保育園に対するご意見・ご要望など、ご自由にお書きください

- ・子どもの人数が多く、先生が病欠などでいなくなると大変なのはとてもわかるし、毎日子どもを見てくれてありがたい気持ちだが、言葉がわからない子にも、もう少し子どもに話しかけてほしい。
- ・とても面倒見が良いので、大変ありがたいです。
- ・おむつがずれていて、半分お尻が見えている状態があり、家に帰っておしっこやうんちが漏れていることがあるので、忙しいと思うが少しだけ気にしてほしい。
- ・神明保育園は素晴らしい保育園です。
- ・特に不満はないですが、小学校の情報等、今後進学していくにあたっての情報や、イベントを保育園で開催してもらえるとありがたいと思うところはあります。
- ・感染症の情報を、もう少しリアルタイムで掲示していただけると助かるなと思います。
- ・一部先生について、明るく挨拶をしてほしいと思う時がある。他の先生方は皆さん、良い方で助かってる。ありがとうございます。
- ・朝泣くことが多いのですが、担任の先生以外は結構泣いていても、放ったらかしが多い気がします。
- ・2人お世話になっていますが、園での生活が素晴らしいものと確信しています。先生やお友達とも仲が良く、楽しそうに通っています。
- ・学校の情報共有などがあると、ありがたいです。
- ・昔からいらっしゃる先生は、子どものことを本当によく見ていて、流石と思います。
- ・いつも保育を行っていただき、感謝しています。忙しそうだなと感じる時もありますが、概ね対応には満足しております。子が家族以外と親密に触れ合える貴重な場だと思っております。
- ・進級前の個人面談で、子どもが「グレーゾーン」と指摘されたが、複数の心理士に相談した結果、年齢相応で問題ないとの判断を得た。保護者としては指摘の根拠がわからず、不必要な不安を抱え、園の姿勢に不信感を抱くようになった。医療資格のない保育士が「グレーゾーン」「発達障害」といった言葉を安易に用いることには、慎重になってほしい。また、重要な内容を伝える際は、園長等の同席が望ましく、この点について区内の保育園全体への周知を求めたい。
- ・職員の人数が少なく忙しそうであるため、補助要員等が必要ではないかと考える。
- ・体操、音楽、英語、ダンスの時間がもう少し増えたら嬉しいです。子どもがそのものを楽しんでいるようですし、いつもと違う先生なのも刺激があって良さそうです。
- ・早朝や延長、休日保育が充実していて親にとってはありがたい施設です。しかし、子どもにとってはどうなのだろうと感じることもあります。都心の保育園なので、なかなか野外活動も制限がありますが、友達や先生というプチ社会の中での自然とふれあいや体験学習ができる機会がもっと増えると嬉しいです。また、子ども園のような体制になるとなお嬉しいです。
- ・柔軟に対応してくださることもあり、感謝しています。個々の対応は子どもの人数が多い分、叶わないこともあると思いますが、安全面はかなり注意して先生方が対応してくれているので、安心して預けられます。他の保育園の話も聞きますが、さくらんぼの先生方に見てもらえて良かったと思います。
- ・職員の方が疲れている様子がわかる時がある。お休み取れていますかね…。

## ◆ 今回の調査についてお気づきになった点など、ご自由にお書きください

●総合的な感想

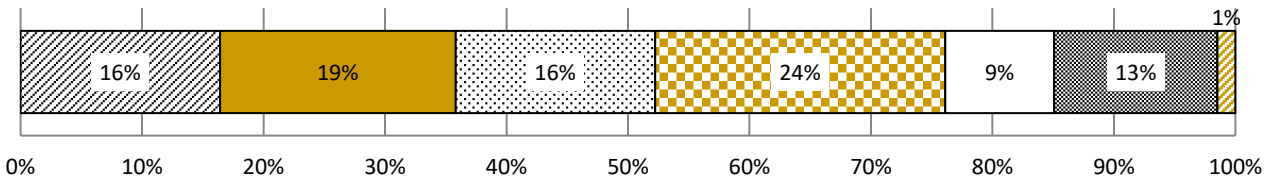
大変満足   
 満足   
 どちらともいえない   
 不満   
 大変不満   
 無回答



大変満足	満足	どちらともいえない	不満	大変不満	無回答
30	23	3	0	0	0

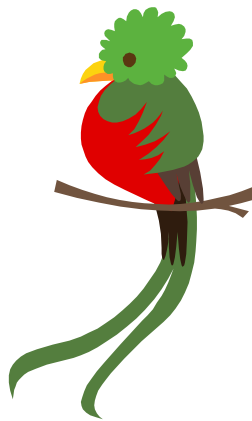
F 4. お子さんが通うクラス (複数回答)

0歳児クラス   
 1歳児クラス   
 2歳児クラス   
 3歳児クラス   
 4歳児クラス   
 5歳児クラス   
 無回答



0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス	無回答
11	13	11	16	6	9	1

### 第三章 職員自己評價結果



# 港区立神明保育園 【職員自己評価結果】

リーダー層	4名
一般職員	33名
合計	37名

2026年1月



Japan life care

株式会社 日本生活介護

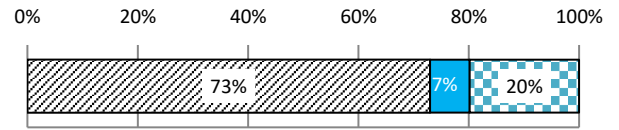
○ そう思う   
  × そう思わない   
  N わからない・あてはまらない

1 リーダーシップと意思決定

1 事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている

1-1-1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している

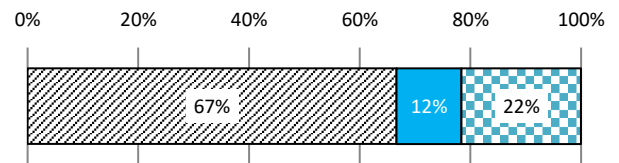
○  
 ×  
 N



職員自己評価項目	職員全体		リーダー層		一般職員	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1 ① 事業所は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	29	78%	3	75%	26	79%
② 私は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を理解できている	29	78%	4	100%	25	76%
2 事業所は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	23	62%	2	50%	21	64%

1-1-2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている

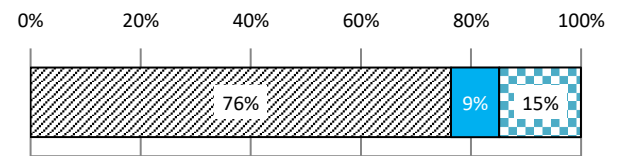
○  
 ×  
 N



職員自己評価項目	職員全体		リーダー層		一般職員	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1 ① 事業所では、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、経営層が自らの役割と責任を職員に伝えている	28	76%	3	75%	25	76%
② 私は、経営層の役割と責任を理解できている	21	57%	2	50%	19	58%
2 事業所では、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、経営層が自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	25	68%	3	75%	22	67%

1-1-3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している

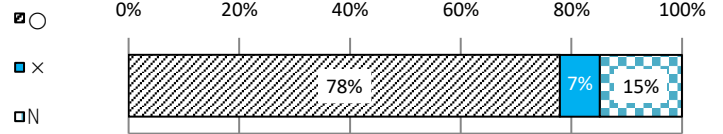
○  
 ×  
 N



職員自己評価項目	職員全体		リーダー層		一般職員	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1 事業所では、重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	25	68%	4	100%	21	64%
2 ① 事業所では、経営層が重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	29	78%	4	100%	25	76%
② 私は、経営層から、重要な意思決定に関して、その内容と決定経緯を知らされている	28	76%	4	100%	24	73%
3 事業所では、利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	31	84%	4	100%	27	82%

## 2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行

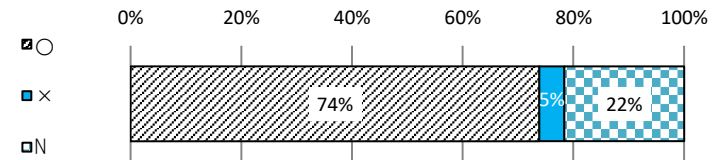
- 1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している
- 2-1-1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している



	職員自己評価項目	職員全体		リーダー層		一般職員		0% 50% 100%		
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	0%	50%	100%
1	事業所は、利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	32	86%	3	75%	29	88%	[Bar chart showing 78% hatched, 7% solid blue, 15% checkered]		
2	事業所は、事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	25	68%	2	50%	23	70%	[Bar chart showing 78% hatched, 7% solid blue, 15% checkered]		
3	事業所は、地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	29	78%	4	100%	25	76%	[Bar chart showing 78% hatched, 7% solid blue, 15% checkered]		
4	事業所は、福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	27	73%	4	100%	23	70%	[Bar chart showing 78% hatched, 7% solid blue, 15% checkered]		
5	事業所は、事業所の経営状況を把握・検討している	29	78%	3	75%	26	79%	[Bar chart showing 78% hatched, 7% solid blue, 15% checkered]		
6	事業所は、把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	31	84%	4	100%	27	82%	[Bar chart showing 78% hatched, 7% solid blue, 15% checkered]		

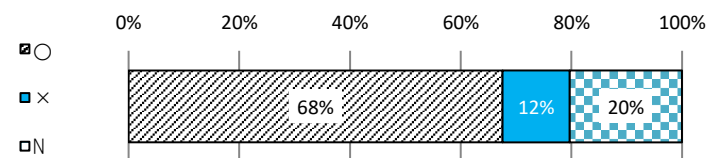
### 2 実践的な計画策定に取り組んでいる

- 2-2-1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している



	職員自己評価項目	職員全体		リーダー層		一般職員		0% 50% 100%		
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	0%	50%	100%
1	事業所は、課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	29	78%	3	75%	26	79%	[Bar chart showing 74% hatched, 5% solid blue, 22% checkered]		
2	事業所は、中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	26	70%	2	50%	24	73%	[Bar chart showing 74% hatched, 5% solid blue, 22% checkered]		
3	事業所は、策定している計画に合わせた予算編成を行っている	27	73%	4	100%	23	70%	[Bar chart showing 74% hatched, 5% solid blue, 22% checkered]		

- 2-2-2 着実な計画の実行に取り組んでいる

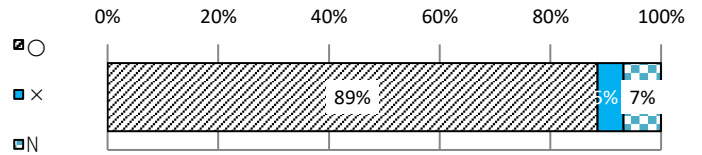


	職員自己評価項目	職員全体		リーダー層		一般職員		0% 50% 100%		
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	0%	50%	100%
1	事業所は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	25	68%	3	75%	22	67%	[Bar chart showing 68% hatched, 12% solid blue, 20% checkered]		
2	事業所は、計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	25	68%	3	75%	22	67%	[Bar chart showing 68% hatched, 12% solid blue, 20% checkered]		

### 3 経営における社会的責任

#### 1 社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる

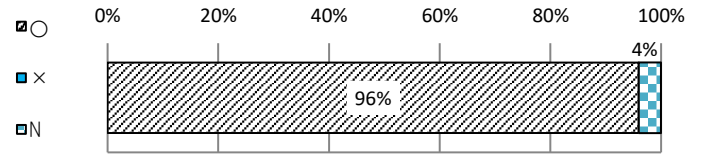
##### 3-1-1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる



	職員自己評価項目		職員全体		リーダー層		一般職員		0% 50% 100%	
	①	②	人数	割合	人数	割合	人数	割合	0%	100%
1	事業所は、全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる		33	89%	3	75%	30	91%		
		私は、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを理解できている	31	84%	3	75%	28	85%		
2	事業所は、全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している		32	86%	3	75%	29	88%		
		私は、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを遵守している	35	95%	3	75%	32	97%		

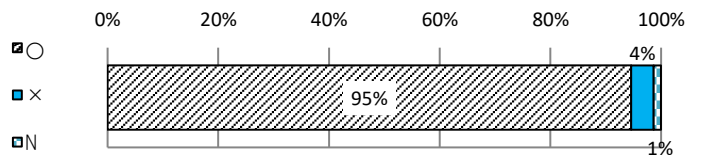
#### 2 利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている

##### 3-2-1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている



	職員自己評価項目		職員全体		リーダー層		一般職員		0% 50% 100%	
	①	②	人数	割合	人数	割合	人数	割合	0%	100%
1	事業所は、苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		36	97%	4	100%	32	97%		
2	事業所には、利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		35	95%	4	100%	31	94%		

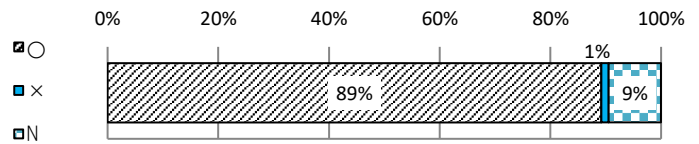
##### 3-2-2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている



	職員自己評価項目		職員全体		リーダー層		一般職員		0% 50% 100%	
	①	②	人数	割合	人数	割合	人数	割合	0%	100%
1	事業所は、利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		35	95%	4	100%	31	94%		
2	事業所は、虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		35	95%	4	100%	31	94%		

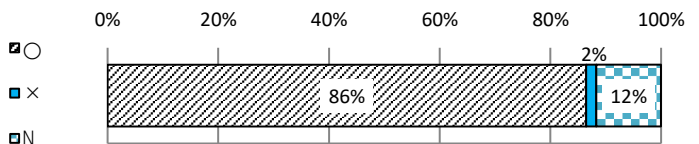
### 3 地域の福祉に役立つ取り組みを行っている

#### 3-3-1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる



	職員自己評価項目	職員全体		リーダー層		一般職員		0% 50% 100%		
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	○	×	N
1	事業所は、透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	31	84%	4	100%	27	82%			
2	事業所は、ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	35	95%	4	100%	31	94%			

#### 3-3-2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている

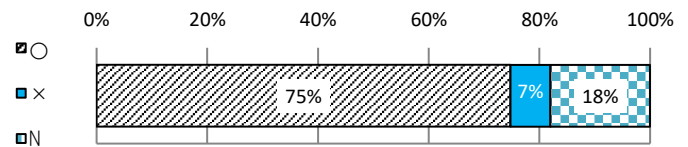


	職員自己評価項目	職員全体		リーダー層		一般職員		0% 50% 100%		
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	○	×	N
1	事業所は、地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	35	95%	4	100%	31	94%			
2	事業所は、事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	32	86%	3	75%	29	88%			
3	事業所は、地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	29	78%	3	75%	26	79%			

## 4 リスクマネジメント

### 1 リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる

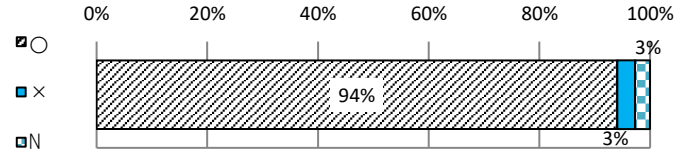
#### 4-1-1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる



	職員自己評価項目	職員全体		リーダー層		一般職員		0% 50% 100%		
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	○	×	N
1	事業所は、事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	27	73%	4	100%	23	70%			
2	事業所は、優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	30	81%	4	100%	26	79%			
3	事業所は、災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	28	76%	4	100%	24	73%			
4	① 事業所は、リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	27	73%	3	75%	24	73%			
	② 私は、リスクに対する必要な対策や事業継続計画について理解できており、自分の役割に応じて対応できる	23	62%	3	75%	20	61%			
5	事業所は、事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	31	84%	4	100%	27	82%			

2 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている

4-2-1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている

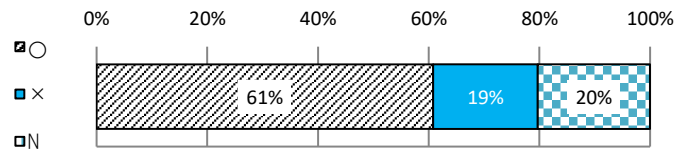


職員自己評価項目	職員全体		リーダー層		一般職員		0%	50%	100%
	人数	割合	人数	割合	人数	割合			
1 ① 事業所は、情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	34	92%	4	100%	30	91%			
② 私は、情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを理解し遵守している	36	97%	4	100%	32	97%			
2 事業所は、収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	35	95%	4	100%	31	94%			
3 事業所は、情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	35	95%	4	100%	31	94%			
4 事業所は、事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	34	92%	3	75%	31	94%			

5 職員と組織の能力向上

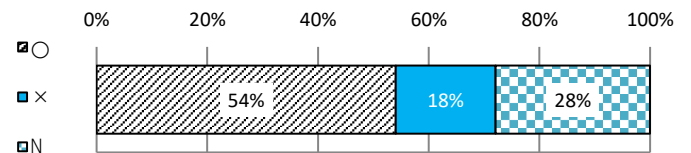
1 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる

5-1-1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている



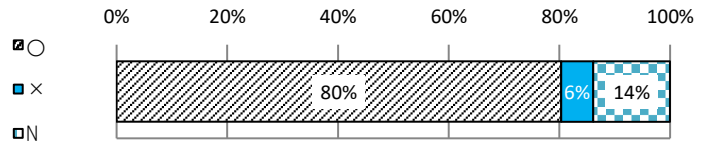
職員自己評価項目	職員全体		リーダー層		一般職員		0%	50%	100%
	人数	割合	人数	割合	人数	割合			
1 事業所は、事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	22	59%	3	75%	19	58%			
2 事業所は、事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	23	62%	3	75%	20	61%			

5-1-2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している



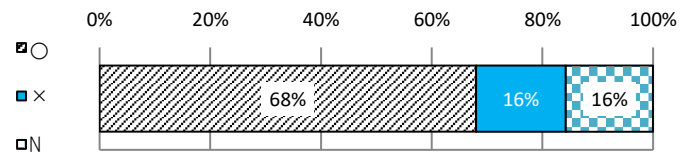
職員自己評価項目	職員全体		リーダー層		一般職員		0%	50%	100%
	人数	割合	人数	割合	人数	割合			
1 ① 事業所では、事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	20	54%	3	75%	17	52%			
② 私は、事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)を理解できている	19	51%	3	75%	16	48%			
2 事業所は、事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	21	57%	2	50%	19	58%			

5-1-3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる



職員自己評価項目	職員全体		リーダー層		一般職員		0%	50%	100%
	人数	割合	人数	割合	人数	割合			
1 ① 事業所は、勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	36	97%	4	100%	32	97%			
② 私には、事業所から様々な研修等の機会が与えられている	33	89%	4	100%	29	88%			
2 ① 事業所は、職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	31	84%	4	100%	27	82%			
② 私の育成(研修)計画は、私の意向や経験等に基づいて策定されている	29	78%	4	100%	25	76%			
3 ① 事業所は、職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	27	73%	4	100%	23	70%			
② 私の育成(研修)計画には、事業所が私の育成の成果を確認した内容が反映されている	26	70%	3	75%	23	70%			
4 事業所では、指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	26	70%	3	75%	23	70%			

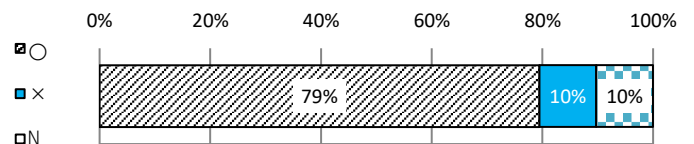
5-1-4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる



職員自己評価項目	職員全体		リーダー層		一般職員		0%	50%	100%
	人数	割合	人数	割合	人数	割合			
1 事業所は、事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	22	59%	2	50%	20	61%			
2 事業所は、就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	27	73%	2	50%	25	76%			
3 ① 事業所は、職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	25	68%	2	50%	23	70%			
② 私はこの事業所の仕事について、意欲と働きがいを持つことができている	26	70%	3	75%	23	70%			
4 ① 事業所は、職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	28	76%	2	50%	26	79%			
② 私の職場では、良好な人間関係が構築されている	23	62%	2	50%	21	64%			

2 組織力の向上に取り組んでいる

5-2-1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる

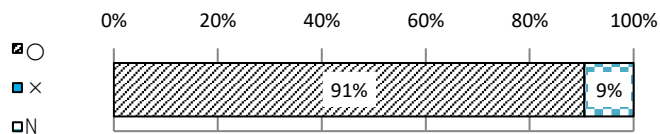


職員自己評価項目	職員全体		リーダー層		一般職員		0%	50%	100%
	人数	割合	人数	割合	人数	割合			
1 ① 事業所は、職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	32	86%	4	100%	28	85%			
② 私が学んだ研修内容は、レポートや発表等で報告し、職員間で共有化している	25	68%	4	100%	21	64%			
2 ① 事業所は、職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	27	73%	3	75%	24	73%			
② 私の日頃の気づきや工夫について、他の職員と互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす機会がある	32	86%	3	75%	29	88%			
3 事業所は、目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	31	84%	3	75%	28	85%			

## 6 サービス提供のプロセス

### 1 サービス情報の提供

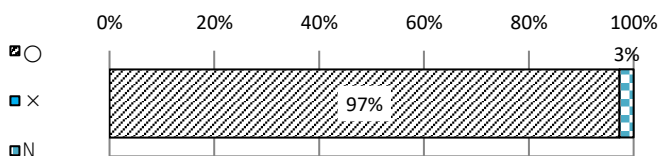
#### 6-1-1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している



職員自己評価項目	職員全体	リーダー層	一般職員	0%	50%	100%
① 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	35 95%	4 100%	31 94%			
② 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	31 84%	4 100%	27 82%			
③ 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	32 86%	4 100%	28 85%			
④ 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	36 97%	4 100%	32 97%			

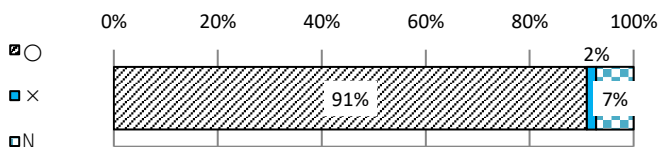
### 2 サービスの開始・終了時の対応

#### 6-2-1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている



職員自己評価項目	職員全体	リーダー層	一般職員	0%	50%	100%
① サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	37 100%	4 100%	33 100%			
② サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	36 97%	3 75%	33 100%			
③ サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	35 95%	4 100%	31 94%			

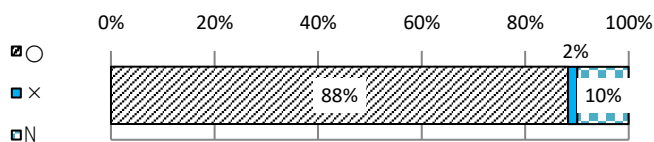
#### 6-2-2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている



職員自己評価項目	職員全体	リーダー層	一般職員	0%	50%	100%
① サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	36 97%	4 100%	32 97%			
② 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	33 89%	4 100%	29 88%			
③ サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	32 86%	4 100%	28 85%			

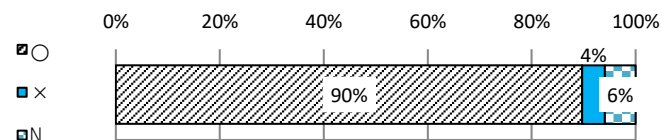
### 3 個別状況に応じた計画策定・記録

6-3-1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している



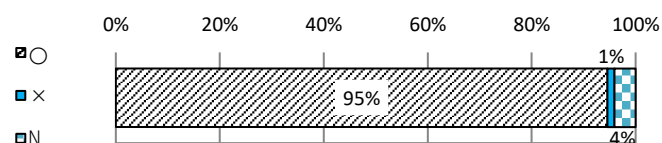
職員自己評価項目	職員全体	リーダー層	一般職員	0%	50%	100%
① 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	37 100%	4 100%	33 100%			
② 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	33 89%	3 75%	30 91%			
③ アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	28 76%	3 75%	25 76%			

6-3-2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している



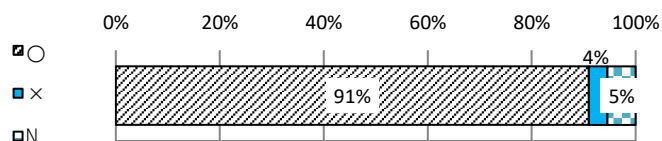
職員自己評価項目	職員全体	リーダー層	一般職員	0%	50%	100%
① 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	34 92%	3 75%	31 94%			
② 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	36 97%	4 100%	32 97%			
③ 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	37 100%	4 100%	33 100%			
④ 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	27 73%	2 50%	25 76%			
⑤ 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	32 86%	4 100%	28 85%			

6-3-3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している



職員自己評価項目	職員全体	リーダー層	一般職員	0%	50%	100%
① 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	35 95%	3 75%	32 97%			
② 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	35 95%	3 75%	32 97%			

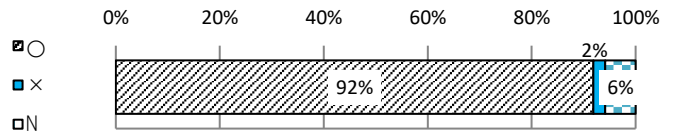
6-3-4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している



職員自己評価項目	職員全体	リーダー層	一般職員	0%	50%	100%
① 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	31 84%	3 75%	28 85%			
② 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	37 100%	4 100%	33 100%			
③ 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	33 89%	4 100%	29 88%			

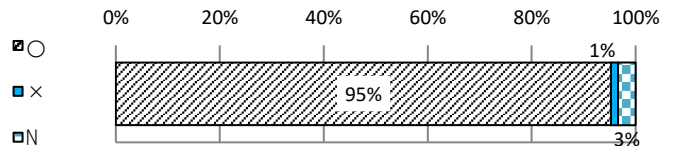
#### 4 サービスの実施

##### 6-4-1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている



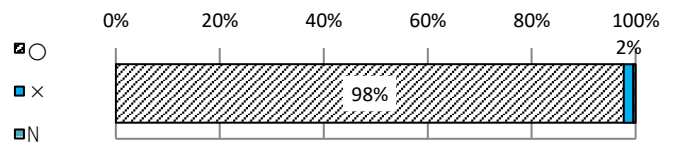
職員自己評価項目	職員全体	リーダー層	一般職員	0%	50%	100%
① 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	37 100%	4 100%	33 100%			
② 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	36 97%	4 100%	32 97%			
③ 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう援助している	35 95%	4 100%	31 94%			
④ 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	31 84%	4 100%	27 82%			
⑤ 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	36 97%	4 100%	32 97%			
【5歳児の定員を設けている保育所のみ】						
⑥ 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	29 78%	4 100%	25 76%			

##### 6-4-2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている



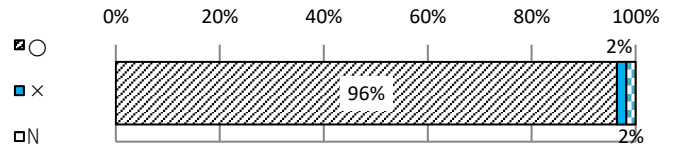
職員自己評価項目	職員全体	リーダー層	一般職員	0%	50%	100%
① 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	35 95%	4 100%	31 94%			
② 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	36 97%	4 100%	32 97%			
③ 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	35 95%	4 100%	31 94%			
④ 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝える	35 95%	3 75%	32 97%			

##### 6-4-3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している



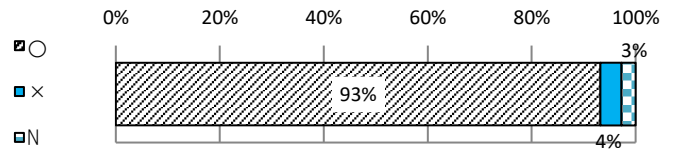
職員自己評価項目	職員全体	リーダー層	一般職員	0%	50%	100%
① 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	35 95%	4 100%	31 94%			
② 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	36 97%	4 100%	32 97%			
③ 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	37 100%	4 100%	33 100%			
④ 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	37 100%	4 100%	33 100%			
⑤ 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	36 97%	4 100%	32 97%			
⑥ 生活や遊びを通して、子どもががまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	36 97%	4 100%	32 97%			

6-4-4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している



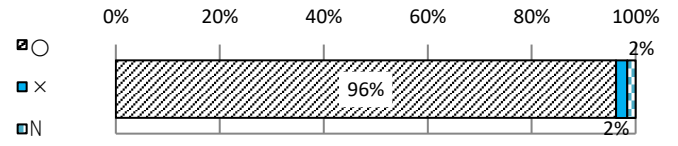
職員自己評価項目	職員全体	リーダー層	一般職員	0%	50%	100%
① 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	35 95%	4 100%	31 94%			
② みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	37 100%	4 100%	33 100%			
③ 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	35 95%	4 100%	31 94%			

6-4-5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている



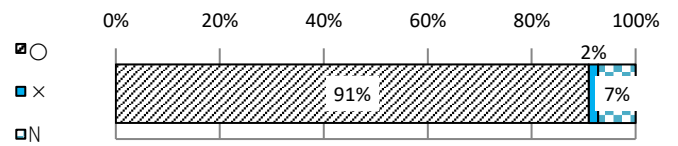
職員自己評価項目	職員全体	リーダー層	一般職員	0%	50%	100%
① 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	34 92%	4 100%	30 91%			
② 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	35 95%	4 100%	31 94%			

6-4-6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している



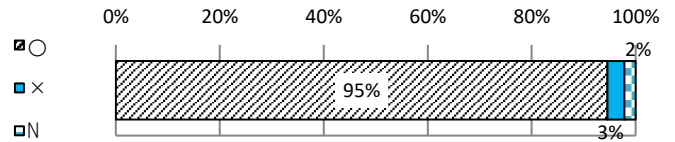
職員自己評価項目	職員全体	リーダー層	一般職員	0%	50%	100%
① 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	36 97%	4 100%	32 97%			
② メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	36 97%	4 100%	32 97%			
③ 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	37 100%	4 100%	33 100%			
④ 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	37 100%	4 100%	33 100%			
⑤ 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	32 86%	4 100%	28 85%			

6-4-7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している



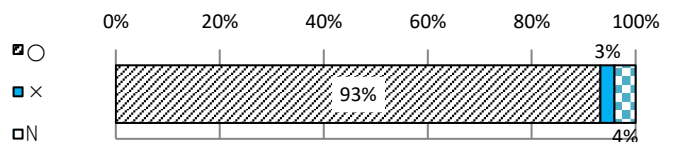
職員自己評価項目	職員全体	リーダー層	一般職員	0%	50%	100%
① 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	35 95%	4 100%	31 94%			
② 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	30 81%	2 50%	28 85%			
③ 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	36 97%	4 100%	32 97%			

6-4-8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている



職員自己評価項目	職員全体	リーダー層	一般職員	0%	50%	100%
① 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	37 100%	4 100%	33 100%			
② 保護者同士が交流できる機会を設けている	35 95%	4 100%	31 94%			
③ 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	34 92%	4 100%	30 91%			
④ 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	34 92%	4 100%	30 91%			
⑤ 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	35 95%	4 100%	31 94%			

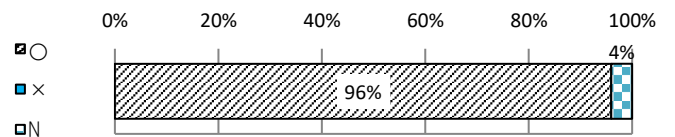
6-4-9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている



職員自己評価項目	職員全体	リーダー層	一般職員	0%	50%	100%
① 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	35 95%	4 100%	31 94%			
② 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	34 92%	4 100%	30 91%			

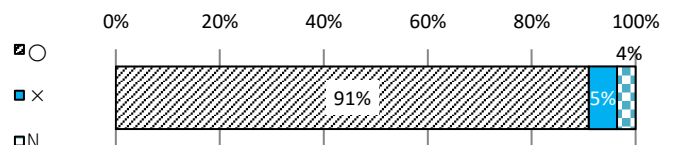
5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

6-5-1 子どものプライバシー保護を徹底している



職員自己評価項目	職員全体	リーダー層	一般職員	0%	50%	100%
① 子どもに関する情報(事項)を外部和りとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている	35 95%	4 100%	31 94%			
② 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	36 97%	4 100%	32 97%			

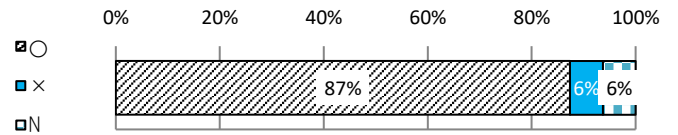
6-5-2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している



職員自己評価項目	職員全体	リーダー層	一般職員	0%	50%	100%
① 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	37 100%	4 100%	33 100%			
② 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	34 92%	4 100%	30 91%			
③ 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	30 81%	3 75%	27 82%			

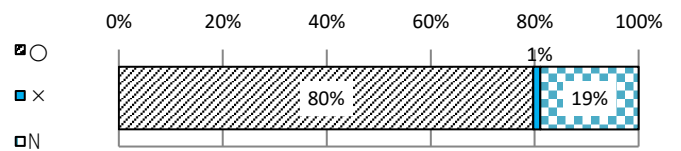
## 6 事業所業務の標準化

6-6-1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている



職員自己評価項目	職員全体		リーダー層		一般職員		0% 50% 100%		
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	○	×	N
① 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	35	95%	4	100%	31	94%			
② 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを定期的に点検・見直しをしている	32	86%	4	100%	28	85%			
③ 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	30	81%	3	75%	27	82%			

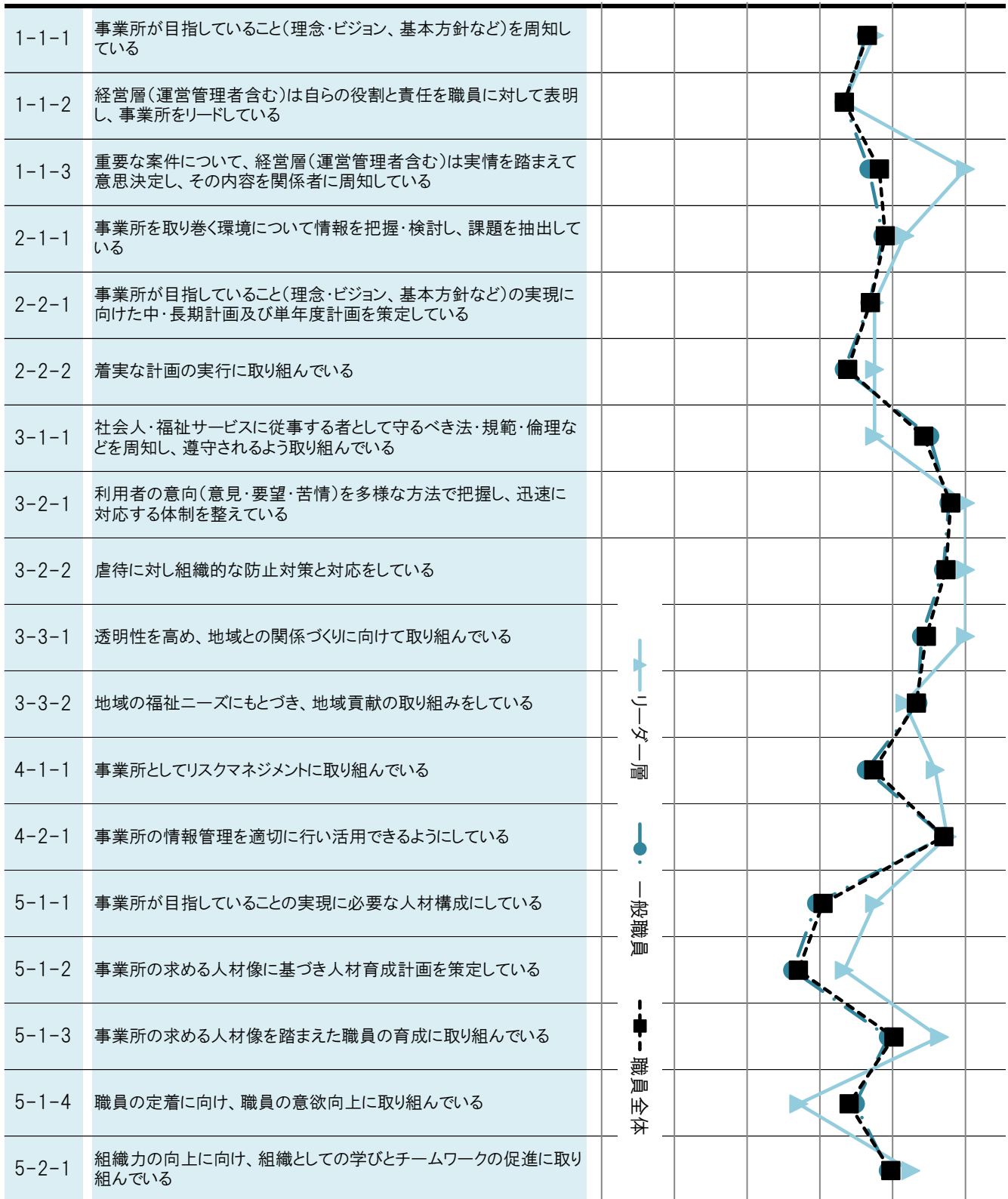
6-6-2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている



職員自己評価項目	職員全体		リーダー層		一般職員		0% 50% 100%		
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	○	×	N
① 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	28	76%	4	100%	24	73%			
② 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	31	84%	4	100%	27	82%			

①調査結果比較表 —— 組織マネジメント

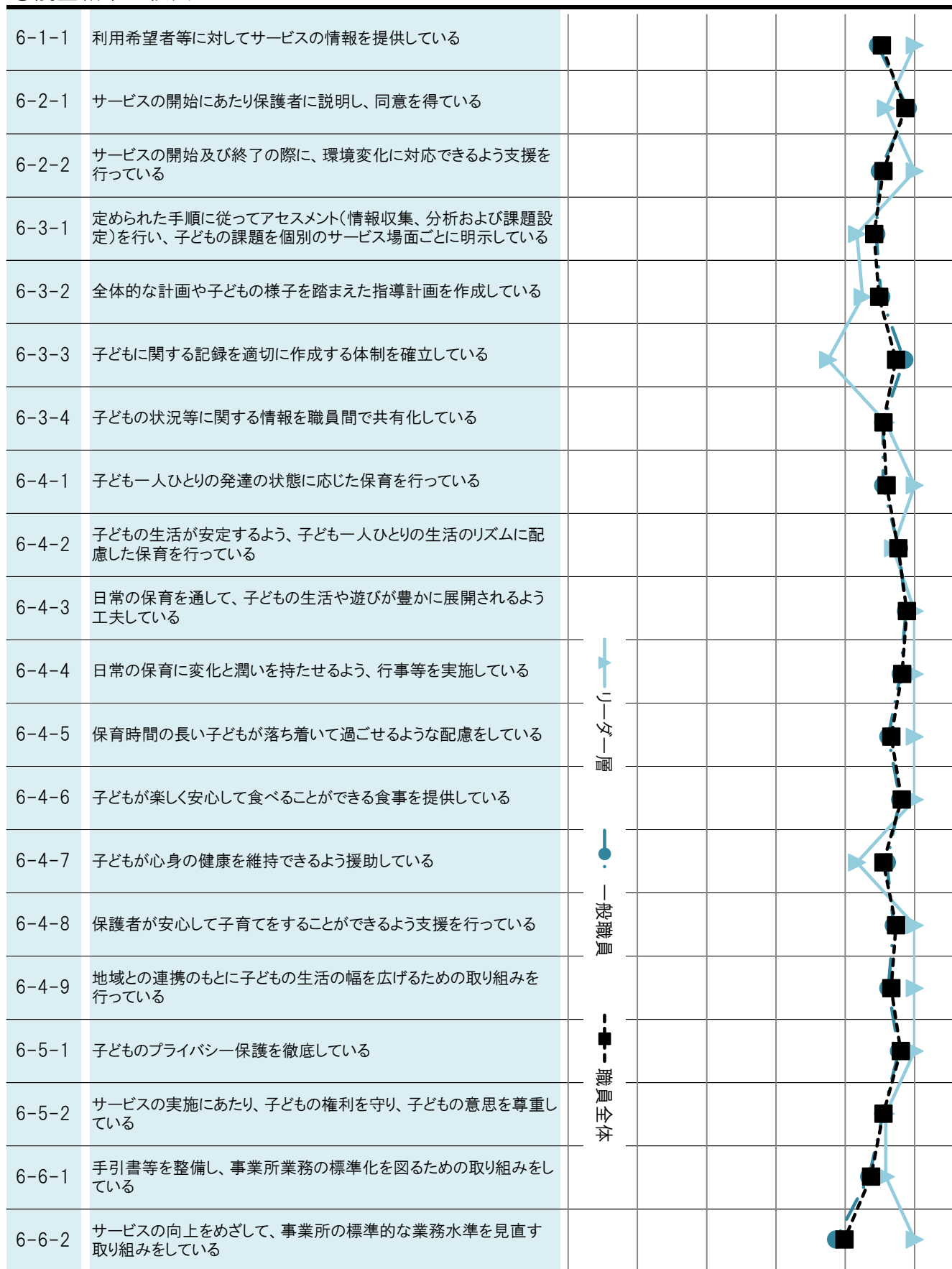
0% 20% 40% 60% 80% 100%



◆リーダー層、一般職員、職員全体の○(そう思う)の回答比率

②調査結果比較表 —— サービス

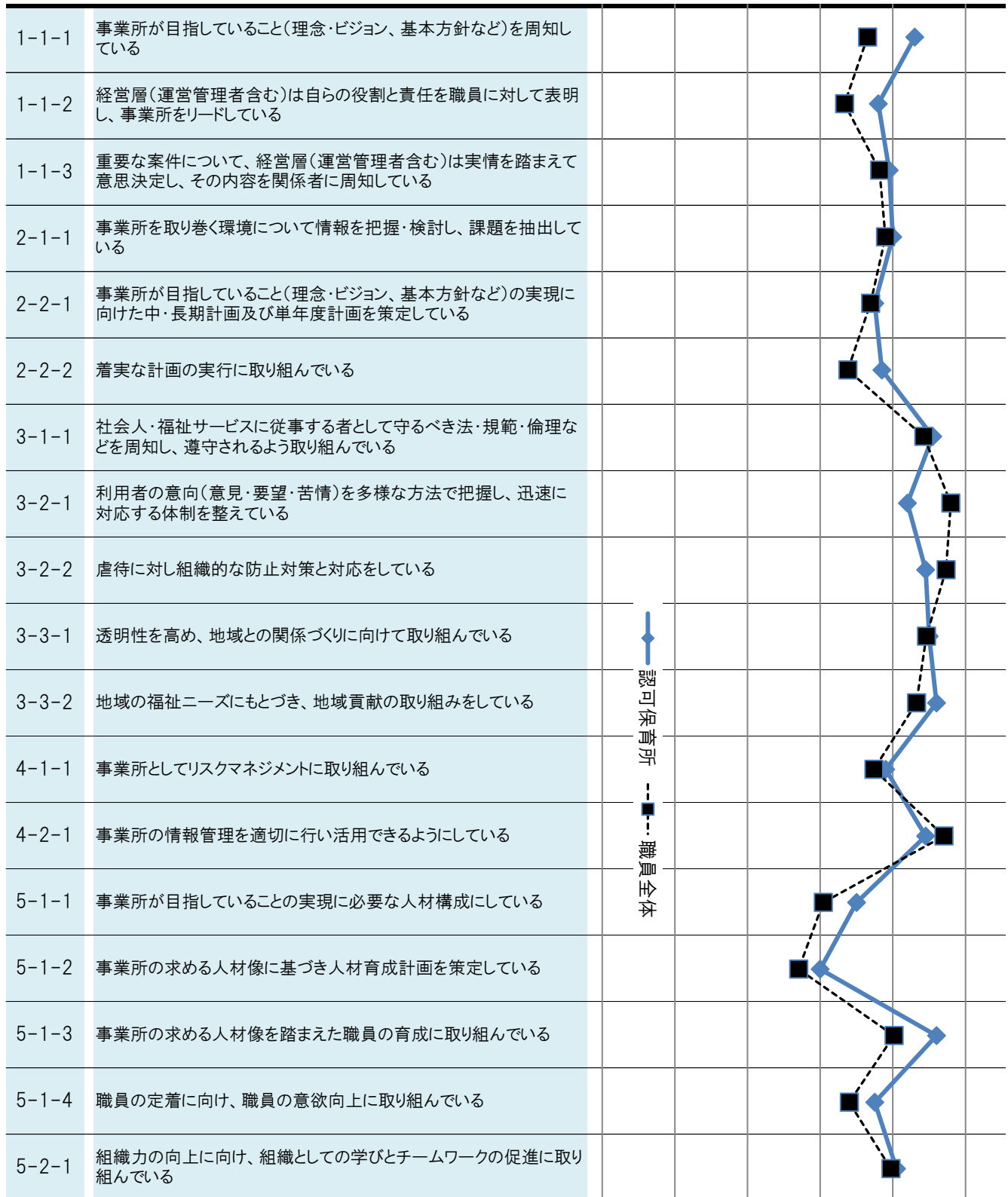
0% 20% 40% 60% 80% 100%



◆リーダー層、一般職員、職員全体の○(そう思う)の回答比率

③調査結果比較表 —— 組織マネジメント

0% 20% 40% 60% 80% 100%

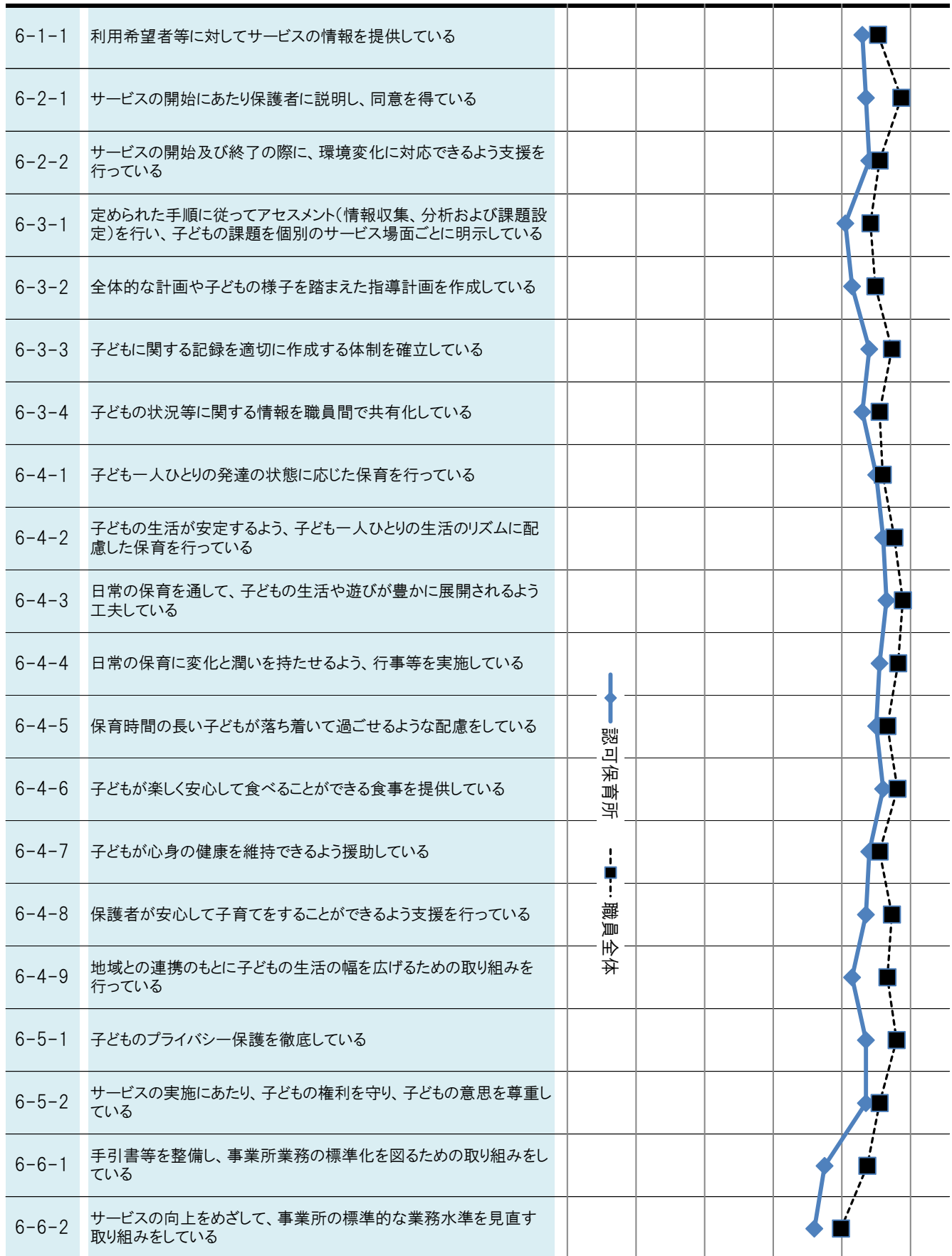


◆あり(○)の割合

◆認可保育所のデータは、過去3年に実施した認可保育所37件の平均値

④調査結果比較表 —— サービス

0% 20% 40% 60% 80% 100%



◆あり(○)の割合  
 ◆認可保育所のデータは、過去3年に実施した認可保育所37件の平均値

## ■カテゴリーごとのコメント(組織マネジメント分析シート)

### 【カテゴリー1 リーダーシップと意思決定】

### 【カテゴリー2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行】

- ・定期的な面談や会議で知る機会が多くある。

### 【カテゴリー3 経営における社会的責任】

- ・研修や行事の中で他の園と交流の中で意識を高め、学ぶ機会がある。近年はボランティアで卒園児が来たり、実習を経て就職する職員もおり、日々の保育の積み重ねを感じる。
- ・地域連携の機会が増え、保護者から良い意見も増えていっていると感じている。

### 【カテゴリー4 リスクマネジメント】

- ・一つひとつ業務マニュアルに落とし込まれていると感じる。他園でのアクシデントについて、すぐに周知されるため、自園での取り組みも合わせて伝達されるため、リスクへの想像力や行動指針もある程度備わっていると感じる。

### 【カテゴリー5 職員と組織の能力向上】

- ・評価が給与、賞与に反映されない。
- ・指導、育成できない職員が年数を重ね、全体リーダーやクラスリーダーといった役職についているため、下がまったく育っていない。
- ・真面目に働いて成果を出しても評価されていないと感じる。
- ・職場の事務作業のルールが変わりすぎて、ついていけない部分がある。書類作成をするには、保育中に回せるよう職員が動くことにはなっているが、幼児の担任である私は活動中に抜けて書類を行う訳にもいかず、しかし書類の多さも、今の職場の書類作成などの事務作業ルールが追いついていないのが現状である。
- ・今年度は正社員でスタートし、他園から異動となった職員が多く、職員一人ひとりが持つ園独自のルールの衝突のようなものが多くあったが、お互いに理解を深めていると感じる。異動の職員が多かったため、保育のアイデアもさまざまであり、他のクラスの様子を見ていると働いていて“楽しい”と感じる。
- ・人材育成のシステムが破綻している。
- ・職員を指導、育成できる職員がほとんどいない。

## ■サブカテゴリーごとのコメント(サービス分析シート)

### 【カテゴリー6 サービス提供のプロセス】

#### サブカテゴリー1 サービス情報の提供

- ・掲示物や運営委員会、懇談会、アンケート等を用いている。

#### サブカテゴリー2 サービスの開始・終了時の対応

### サブカテゴリー3 個別状況に応じた計画策定・記録

- ・計画はあるが職員の理解が浅く、内容が杜撰。
- ・計画作成や記録、それらの振り返りや共有をきちんと行うことのできる職員とできない職員の差が大きいと感じる。

### サブカテゴリー4 サービスの実施

- ・保育時間が長かったりシフト制であるため、どうしても他の園よりも“担任が全てを見ている”ということが少なくなってしまうが、書類や口頭で伝えるようにしている。また、考え方によっては少なくなるからこそ「みんなで一人ひとりの子どもを見る」意識がつくと感じる。
- ・子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育や環境の工夫など、できる職員はいるができない職員の方が多い。
- ・6-4-1 4 特別な配慮が必要な子どもについて、該当クラス担任がみんなと同じことはできないと考え、援助を放棄していると感じることがある。

### サブカテゴリー5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

### サブカテゴリー6 事業所業務の標準化

- ・急にいろいろ変更があって、びっくりすることがある。制服の導入、勤務時間内で研修や会議を済ませないといけなくなったなど。

## ■カテゴリー7 事業所が行った前年度の取り組みにより良くなったと思う点

・見えない残業を減らす働きかけが増えている。行事の準備、進行がスムーズになるように上席の介入が増えた。
・残業簿の改訂により、上席者のとある1名が把握し、その上席者の判断で日中残業回しをし、残業を極力減らしている。
・毎週金曜日の昼に開催される昼礼では、普段なかなか入らない他クラスの情報が共有できるので、いい点だと感じている。
・保育室の床が修繕されてきれいになり、安全性も増した。
・昨年度との差をあまり感じない。
・職員会議の場に栄養士も参加し、給食の献立や共有事項等、話し合う場に参加するようになったことで、共有漏れが起こりにくくなり、前年度よりも連携を深められたと感じる。
・保育の中で地域交流の機会が増えたと感じる。
・面談等の定期的な実施。
・残業管理による残業減。
・入社したばかりのため、わからない。(他1名)
・上席が決めたルールに対して意見が言いやすくなった。
・保育参観、保育参加が導入された。
・職務分担を個々の得意なことや、好きなことに合ったものに任せたことで、個々の良さが引き出されたと感じた。
・残業が少なくなっている。
・今年度より異動のため比較不可。
・保護者会の日時が見直された。
・残業などをなくす方向で、日中に残業回しをする。
・地域連携の機会が増えた。

## ■特に良い点・改善点コメント

### ○特に良いと思う点○

・雰囲気が良い。
・全体的に職員間の雰囲気が良い。
・職員が潤沢で手厚い。
・休みが通りやすい。
・観光地となるスポット数か所に徒歩で行ける。
・地域の施設との交流。
・人員は少し多めに配置できている。
・研修制度の充実。
・地域の保育園、小学校との交流。
・立地が良い。
・大きなホールとプールがあり、設備が充実している。
・保護者の声を聞き、職員同士で話し合い改善に取り組める。
・職員が多く、余裕のある保育ができる。
・施設が整っていて、いろんな保育ができる。
・就学に向けた切れ目のないつなぎりと就学後のフォロー。
・施設が広い。
・園長がエリア長であり、自園で園長会が行われることが多いため、同じエリアの園長の顔をなんとなく知ることができる。
・昼礼、スタッフノートによる職員への周知。
・潤沢な社会資源を活用できる保育環境。
・園内が清潔・明るい。
・子ども達のやりたいや話をしっかりと聞いている。
・職員同士、心休まる相手がいる。
・経営が苦しそうではない。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホワイトな職場。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の活動において散歩、園庭遊び、ホールでの運動、体育館での運動、屋上庭園での遊びなど都会の保育園としては場所的な制限がある中、工夫をしながら子どもたちが体を動かせる機会を設けている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者同士での子どもの様子など、共有をしている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・園庭、屋上庭園がある。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・園庭が広い、施設が広い。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・都会の保育園としては制約がある中で、屋上庭園の畑やプランターを用いて園庭やテラスで野菜や花を栽培して、子どもたちに世話をさせているなど、食や情操の向上を目指して工夫している。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・トップダウンではなく、職員が考えて保育を行えるような園。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価基準が明確。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・他園、自園の事故等の共有が早く、自園での行動指針も合わせて共有される。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一時保育を多く受け入れている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員体制が良い。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ぶつかることもあるが、互いに声を出し、必要に応じて上席が関与し解決できる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・園内に畑がある。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・休日保育している。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートを反映したり、いただいたご意見について話し合う機会がある。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・1か月間の短期異動により、自園と違うタイプの園での保育を経験できて、新たな学びがあった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル化している。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・すぐに報・連・相しやすい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設がきれい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員が多く、さまざまな先生と関わる機会がある。</li> </ul>

### ○特に改善したいと思う点○

<ul style="list-style-type: none"> <li>・離職する職員もいるので、意見を聞く機会をもっと増やしていきたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営層の意見がまとまっていないことがある。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・以前より土曜保育の職員のパワーバランスが考慮されなくなり、日により保育の質に差がある。</li> </ul>

<p>・安全に対する意識が乏しい職員が多く、アクシデントも多い。全体リーダーによるアクシデントが特に多い。反省が形ばかりで生かされていない。</p>
<p>・上司の間で意見の相違から議論が続くことが多く見受けられる。</p>
<p>・業務が一部のみに偏りすぎている。</p>
<p>・社員のストレス改善。</p>
<p>・職員の書類作成のルール。</p>
<p>・決まったルールがそれぞれ曖昧になり、結局何をするのかわからない。</p>
<p>・クラス保育から園保育への意識転換。</p>
<p>・指定管理園と会社の園との違いから来る職員間のすれ違い。</p>
<p>・職員数が多い分、情報周知、共有がうまく流れが必要。</p>
<p>・上席同士の連絡ができていなくて、正しい情報が降りてこない。</p>
<p>・職員個々の保育力の向上。</p>
<p>・保育士の質が低い。</p>
<p>・職員が多い分、情報の共有が難しい。</p>
<p>・課題のある職員の育成について。</p>
<p>・職員の保育スキルや保育の質にばらつきがあり、指導・育成を担える人材が不足しています。経営層が現場を見る機会も少ないため指導が行き届かず、結果として人材が育ちにくい状況です。</p>
<p>・一部経営層の対応が日によって差があり、職員が業務の相談や報告をしづらいつと感じる場面があります。</p>
<p>・アクシデントに対する危機感が薄い。</p>
<p>・急に決定されて、周知されていない時がある。</p>
<p>・自園の保育状況を把握されにくくなった感じがあるので、経営層も保育に参加してほしい。</p>
<p>・マニュアルを理解してない人が評価されている。</p>
<p>・人間関係のトラブルが割と起こる。</p>
<p>・保護者からの相談や確認事項で、クラス担任でない点もあってその場で返答できず、回答をお待ちいただくことが多々ある。この点を心苦しく思っている。</p>
<p>・職員個々の業務負担の均一化。</p>
<p>・保護者の意見を取り入れている。</p>
<p>・保育士がすべきでない仕事内容がある。</p>